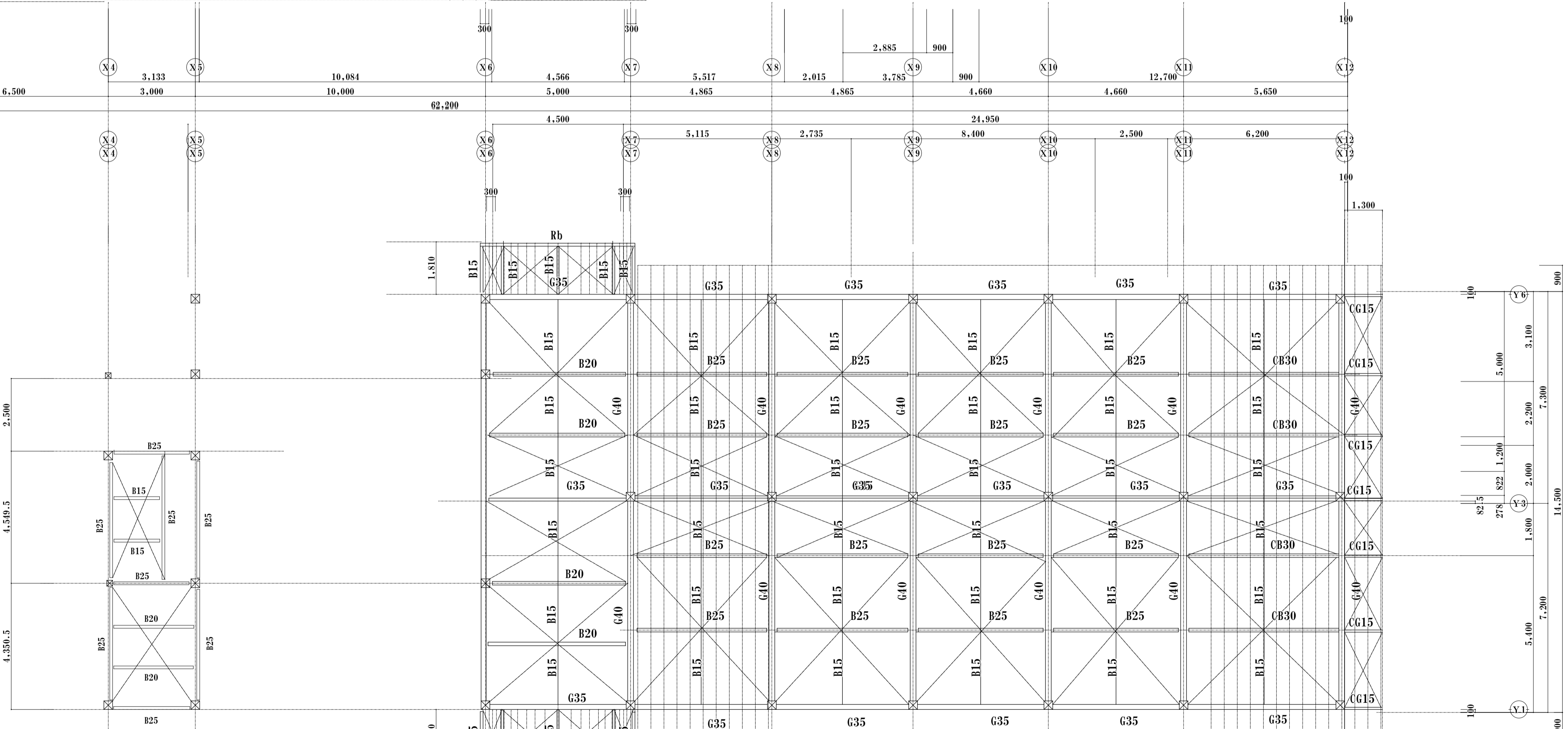
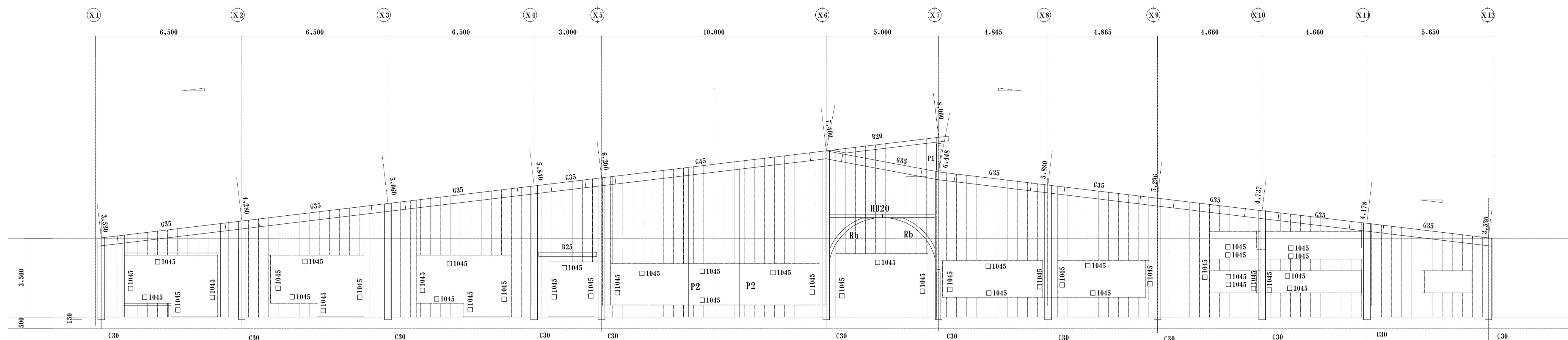


屋根 伏図



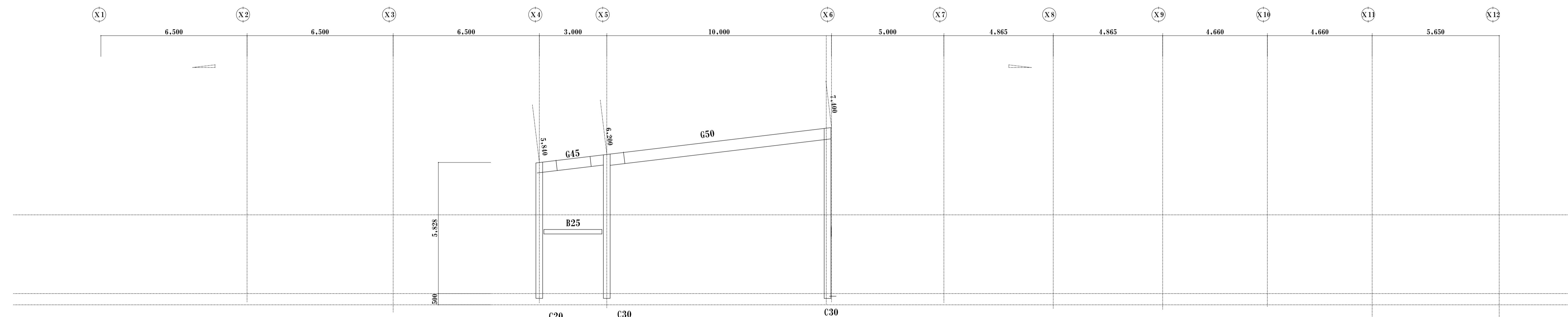
中2階 床伏図

屋根 伏図

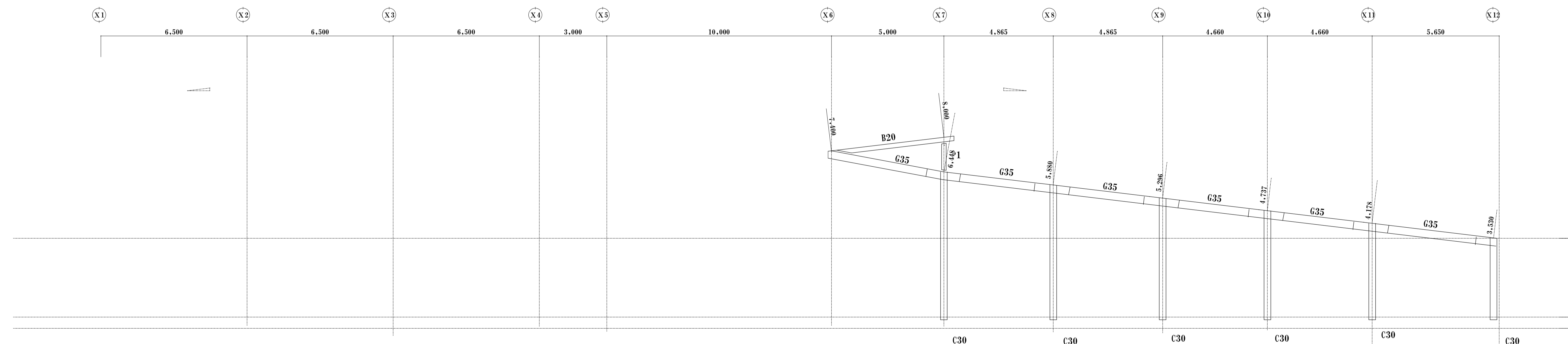


Y1通

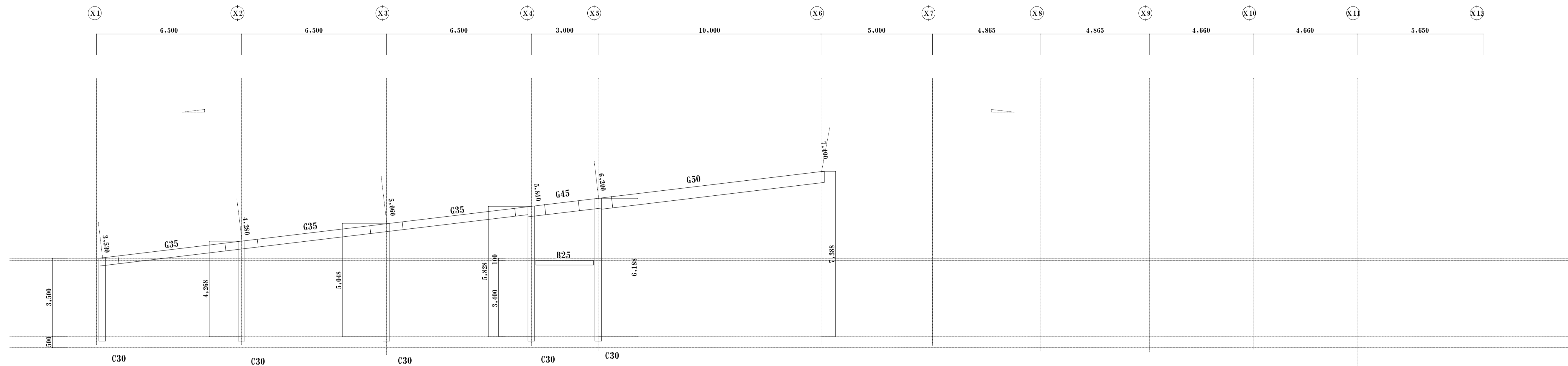
特記なき筋線は C-100x50x20x2.3 @455



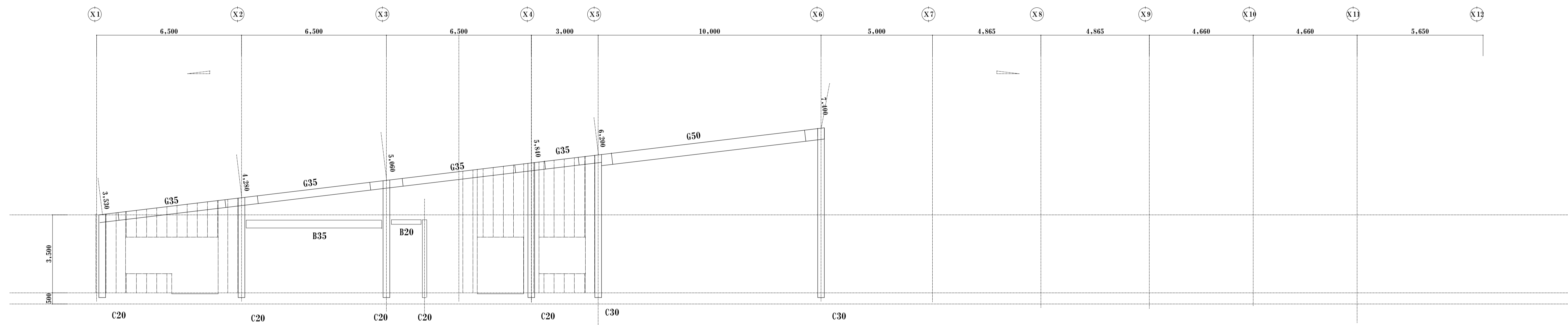
Y2通



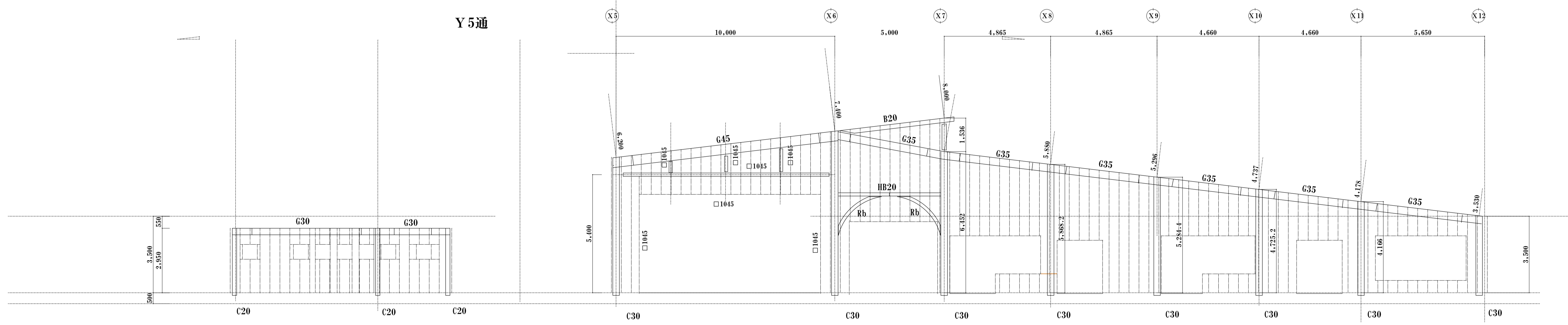
Y3通



Y4通

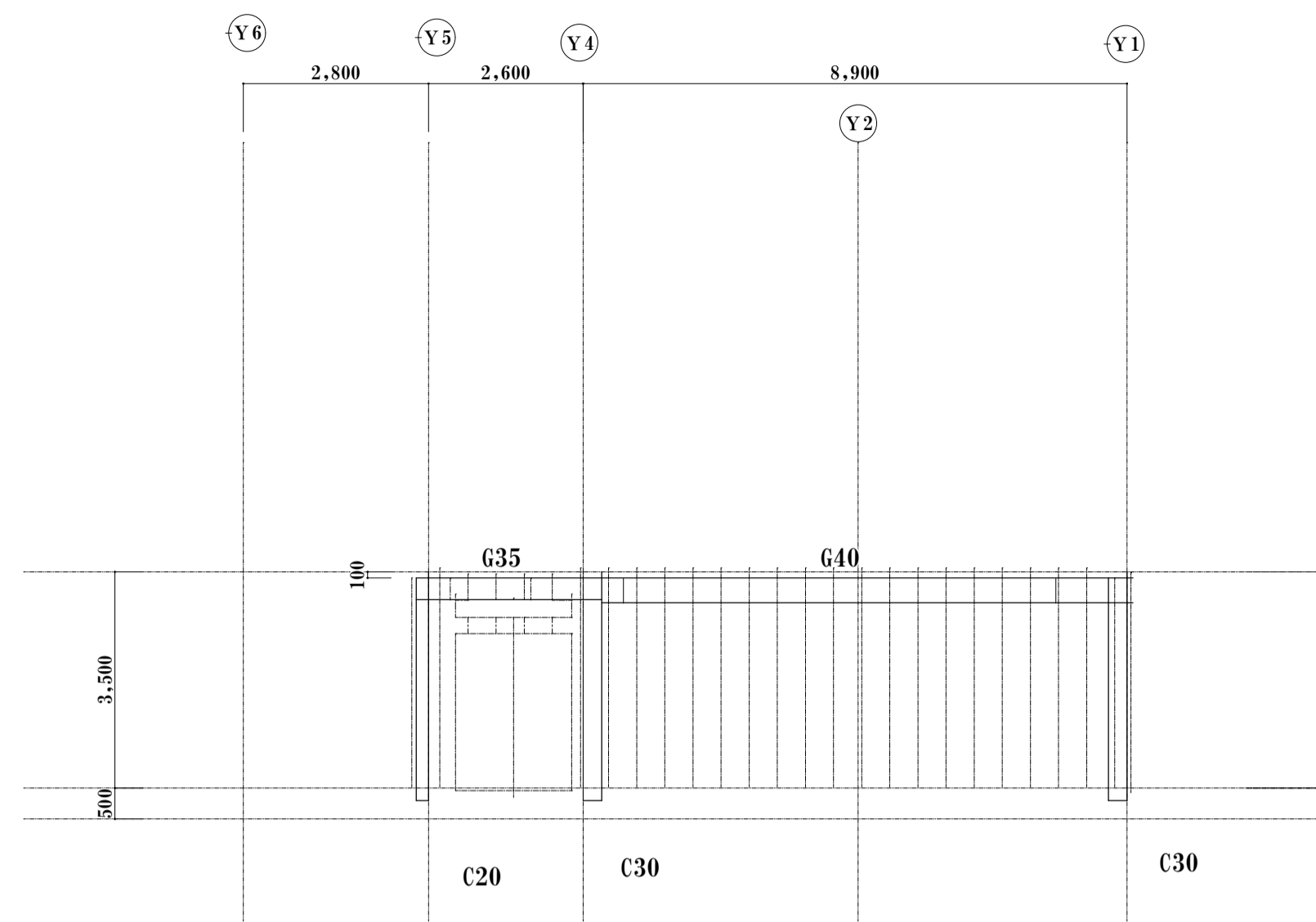


Y5通

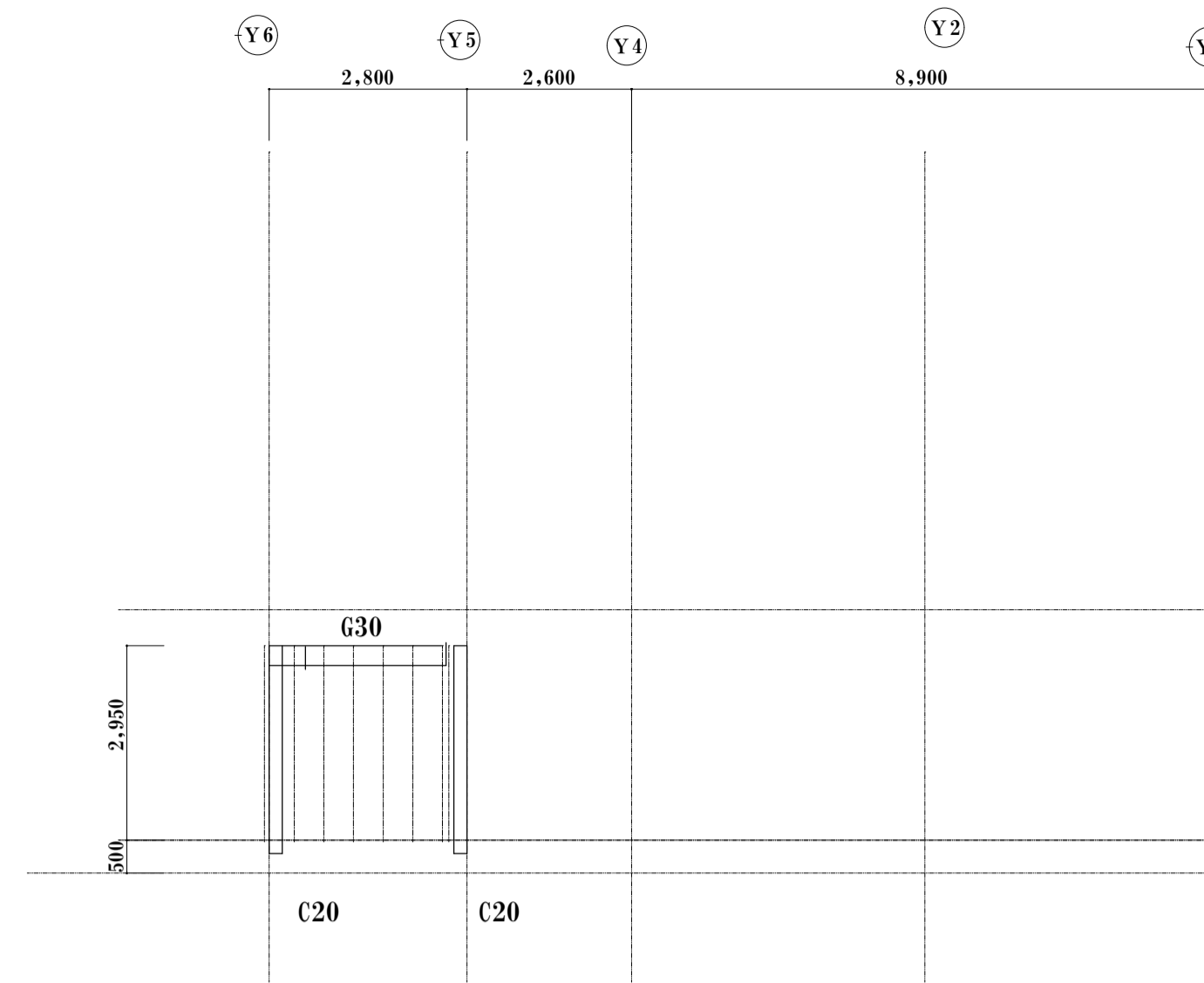


Y6通

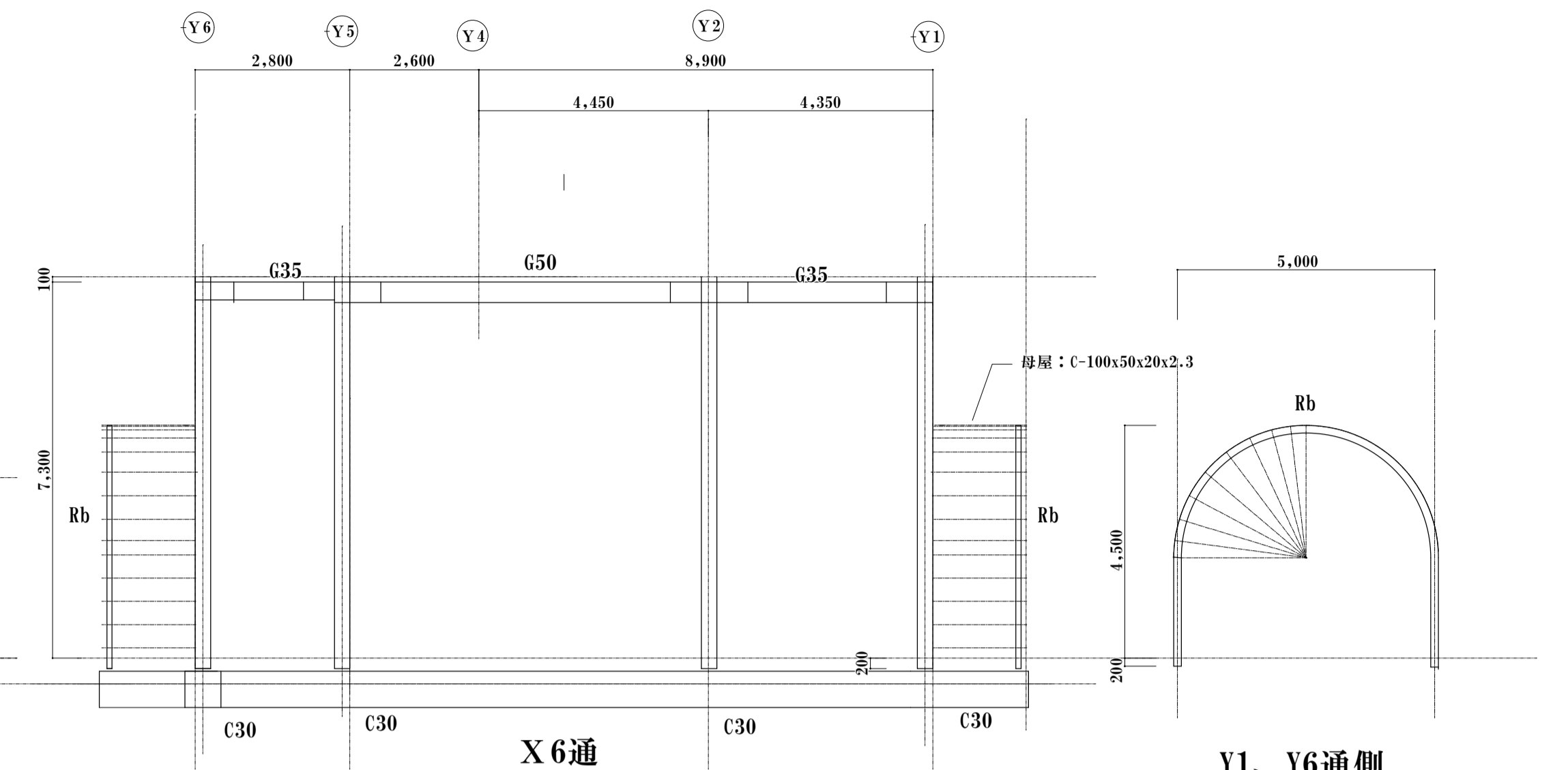
Y6通



X1通

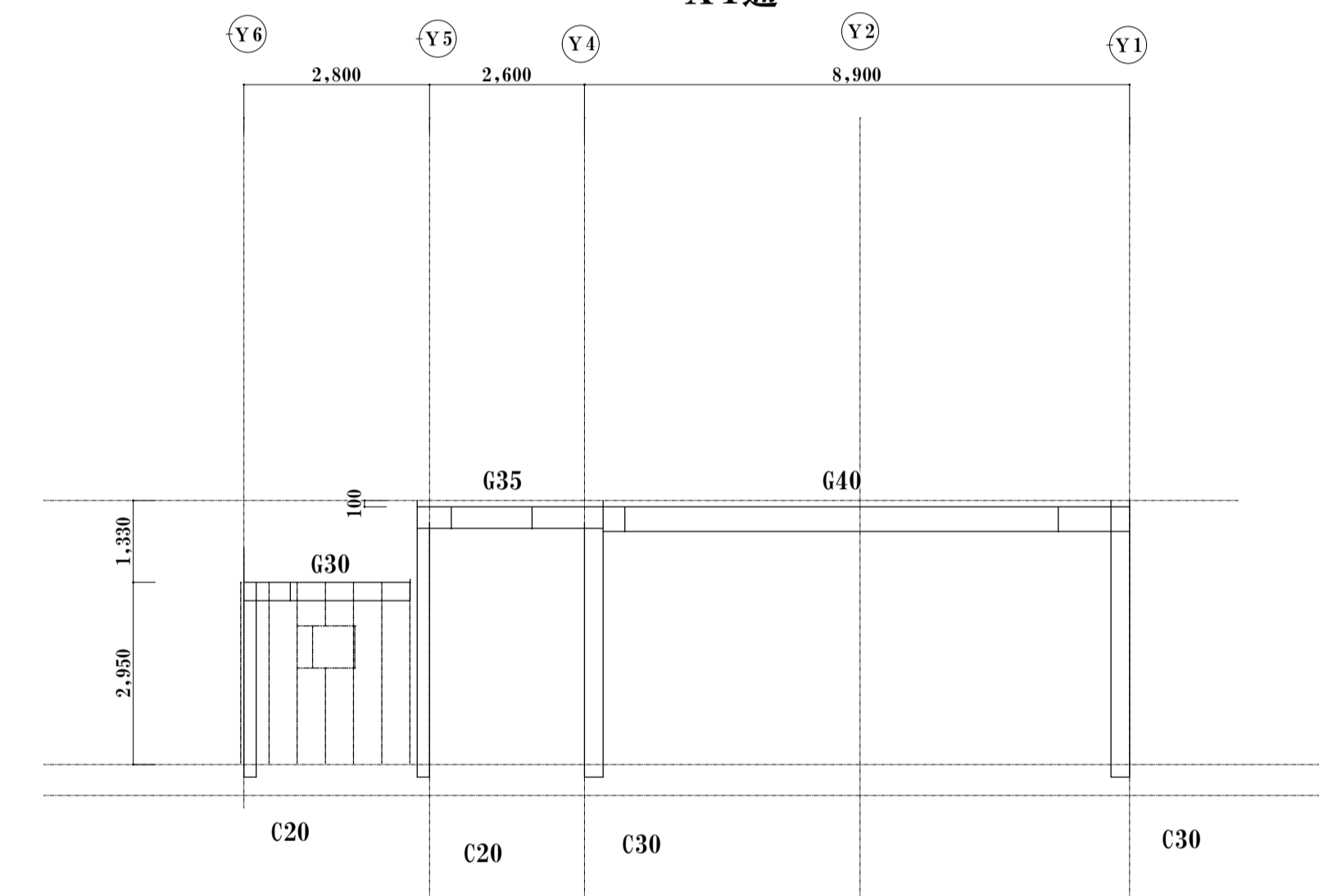


X3'通

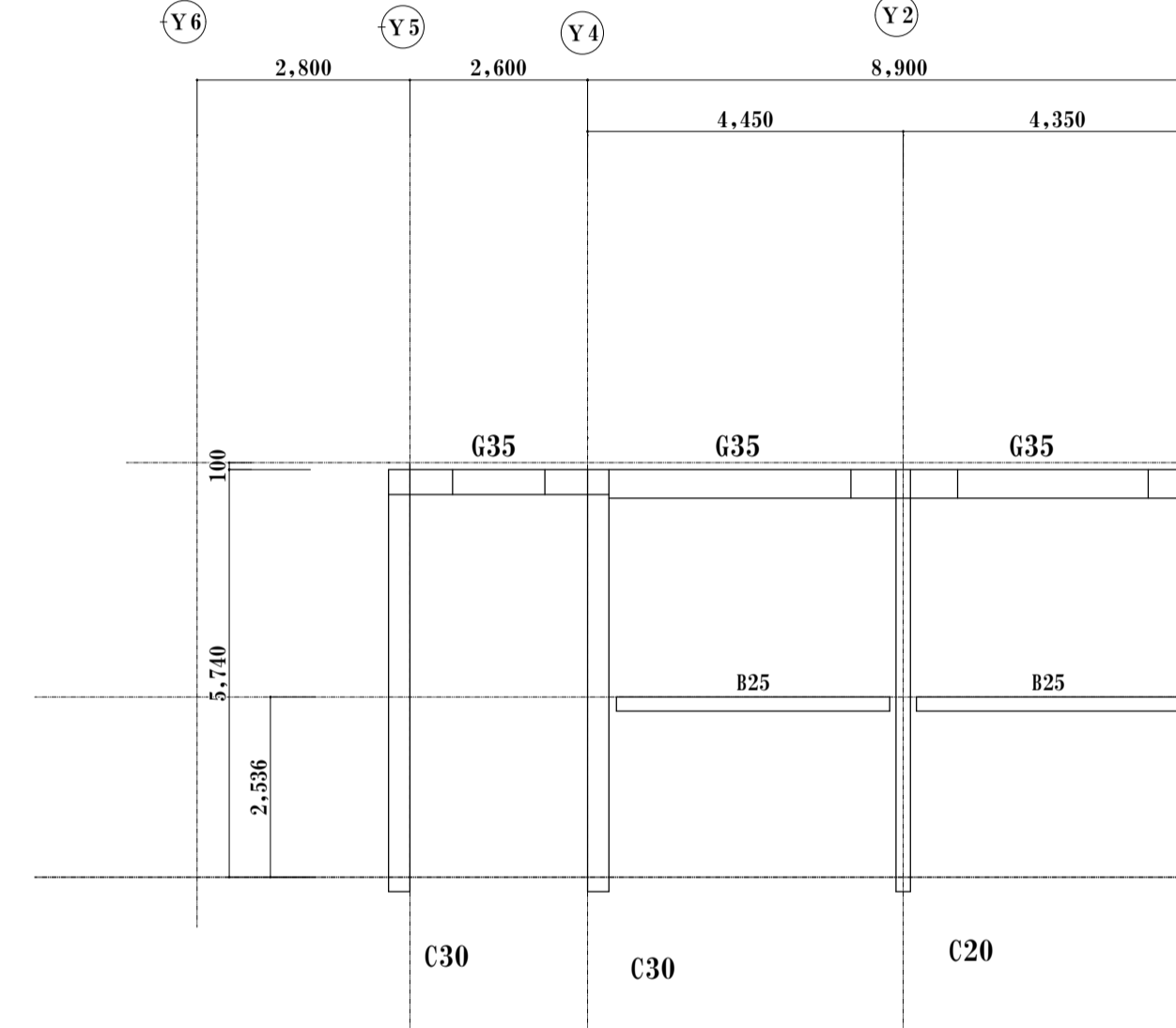


X6通

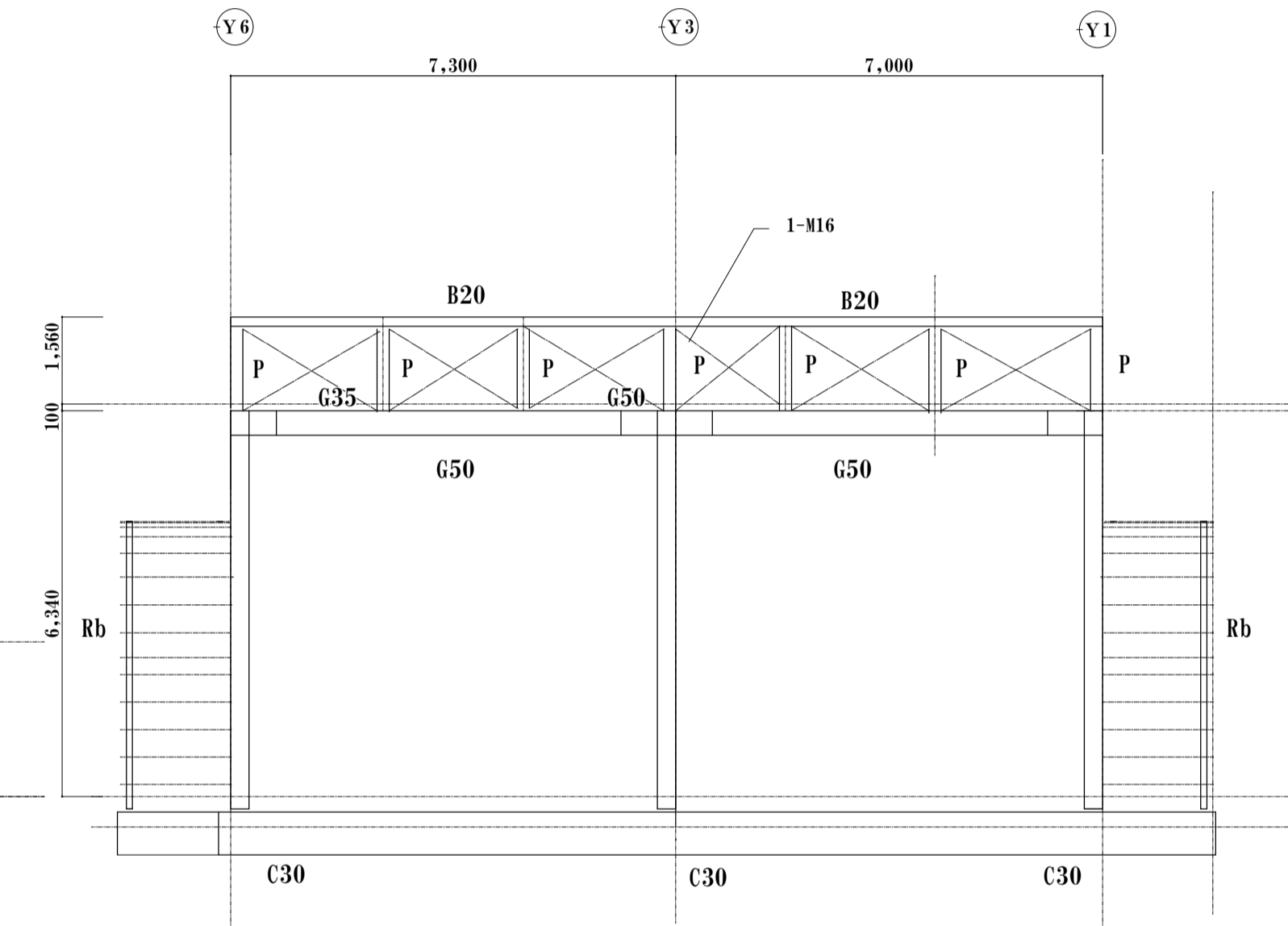
Y1、Y6通側



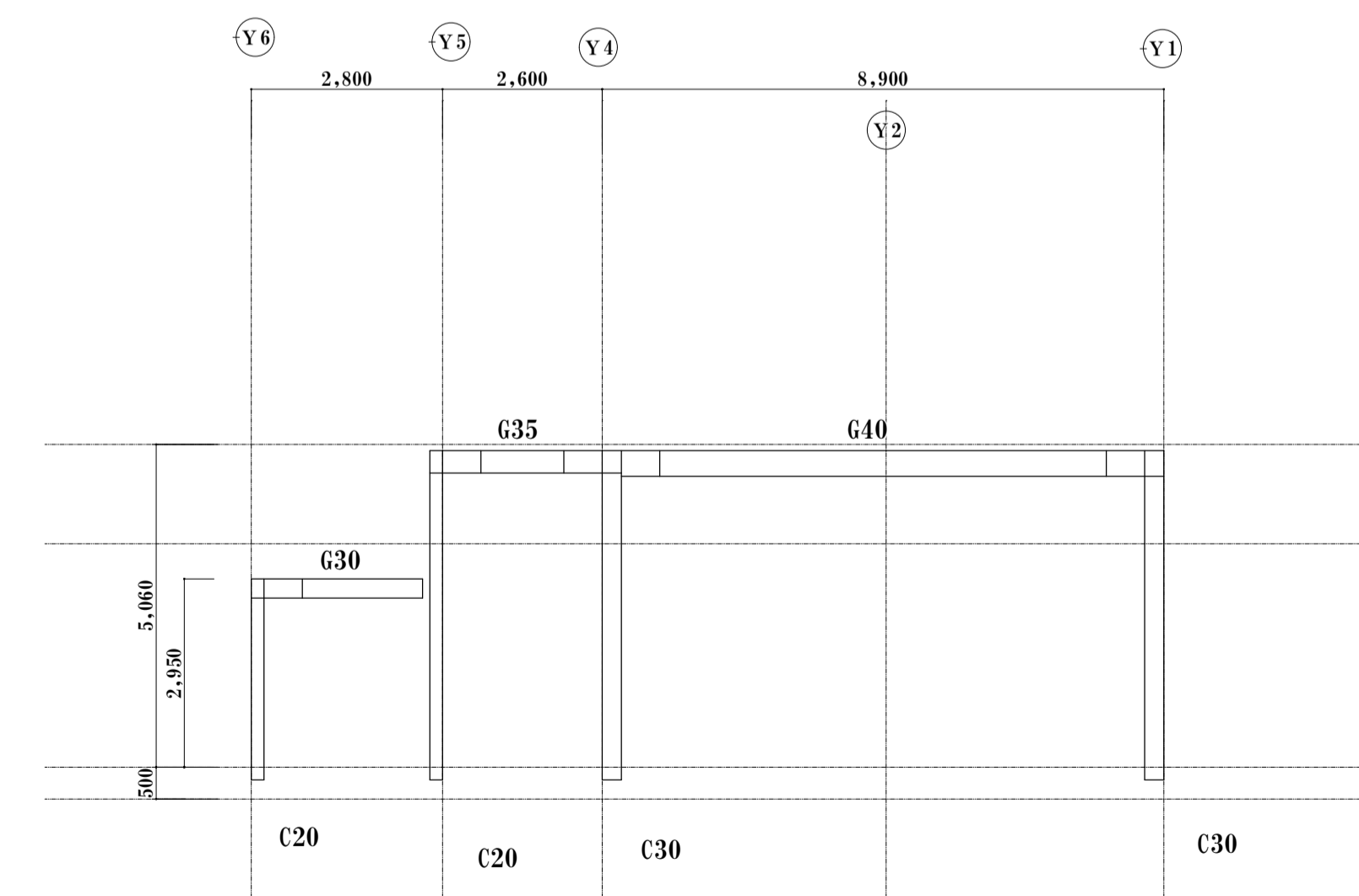
X2通



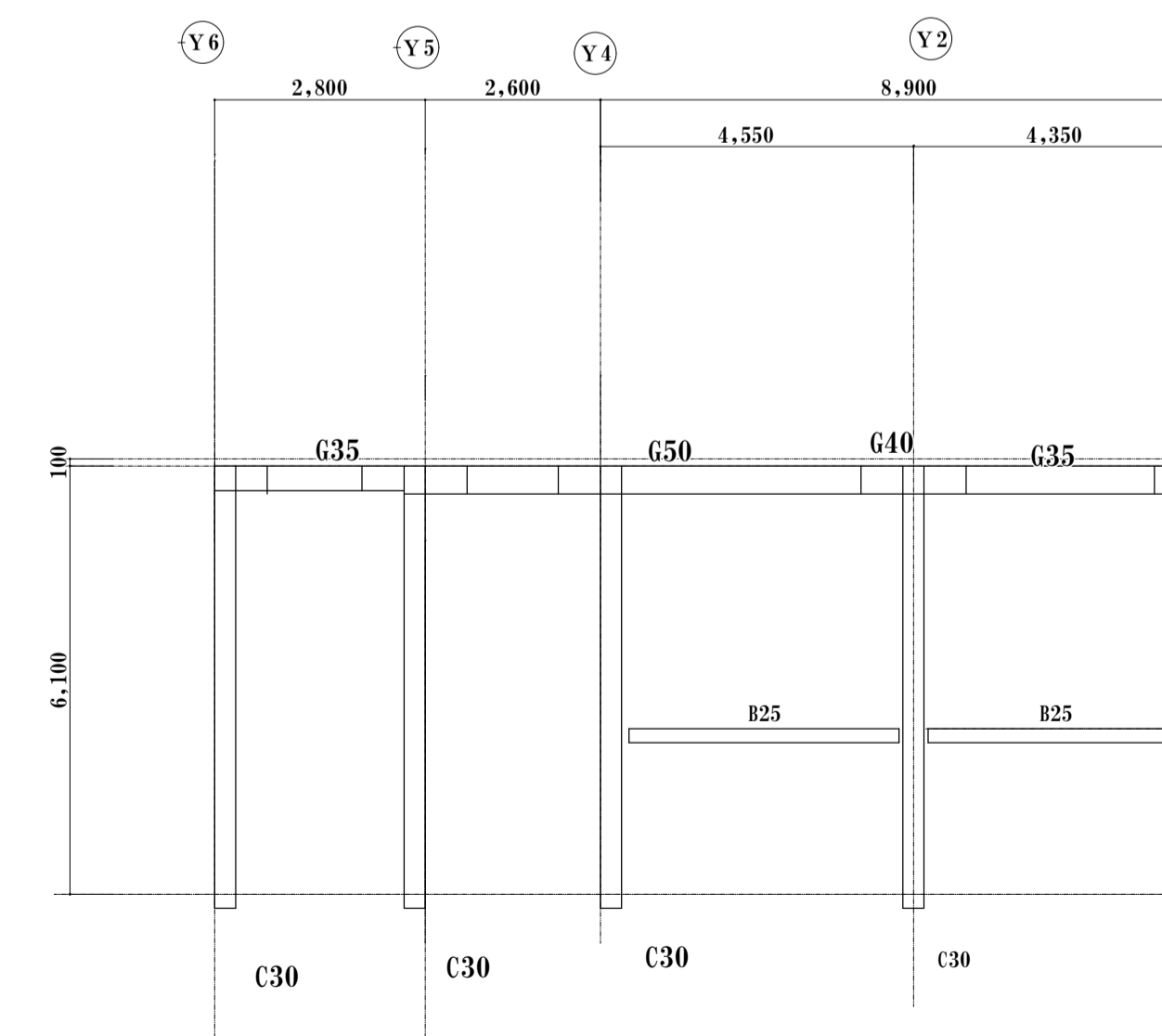
X4通



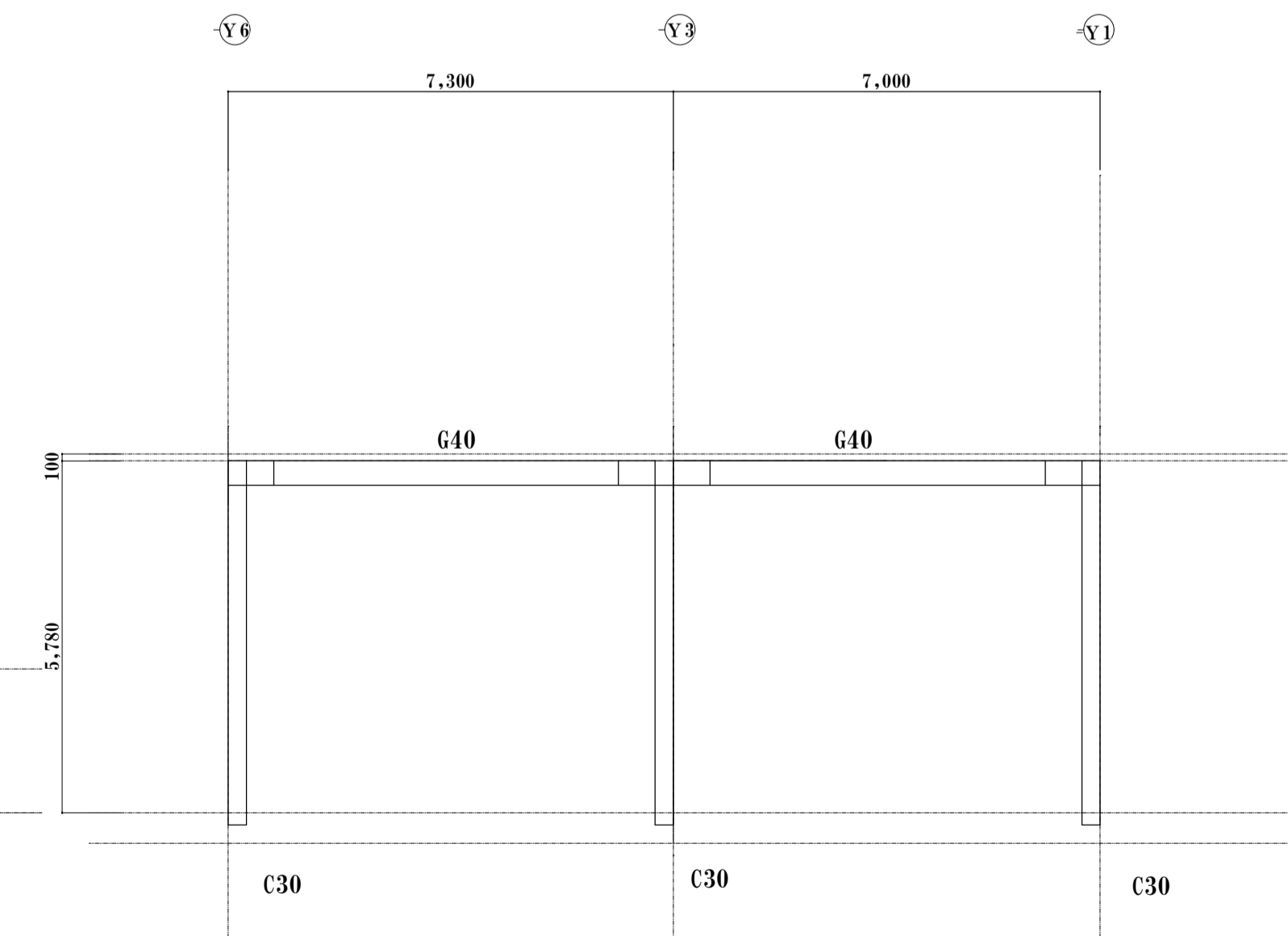
X7通



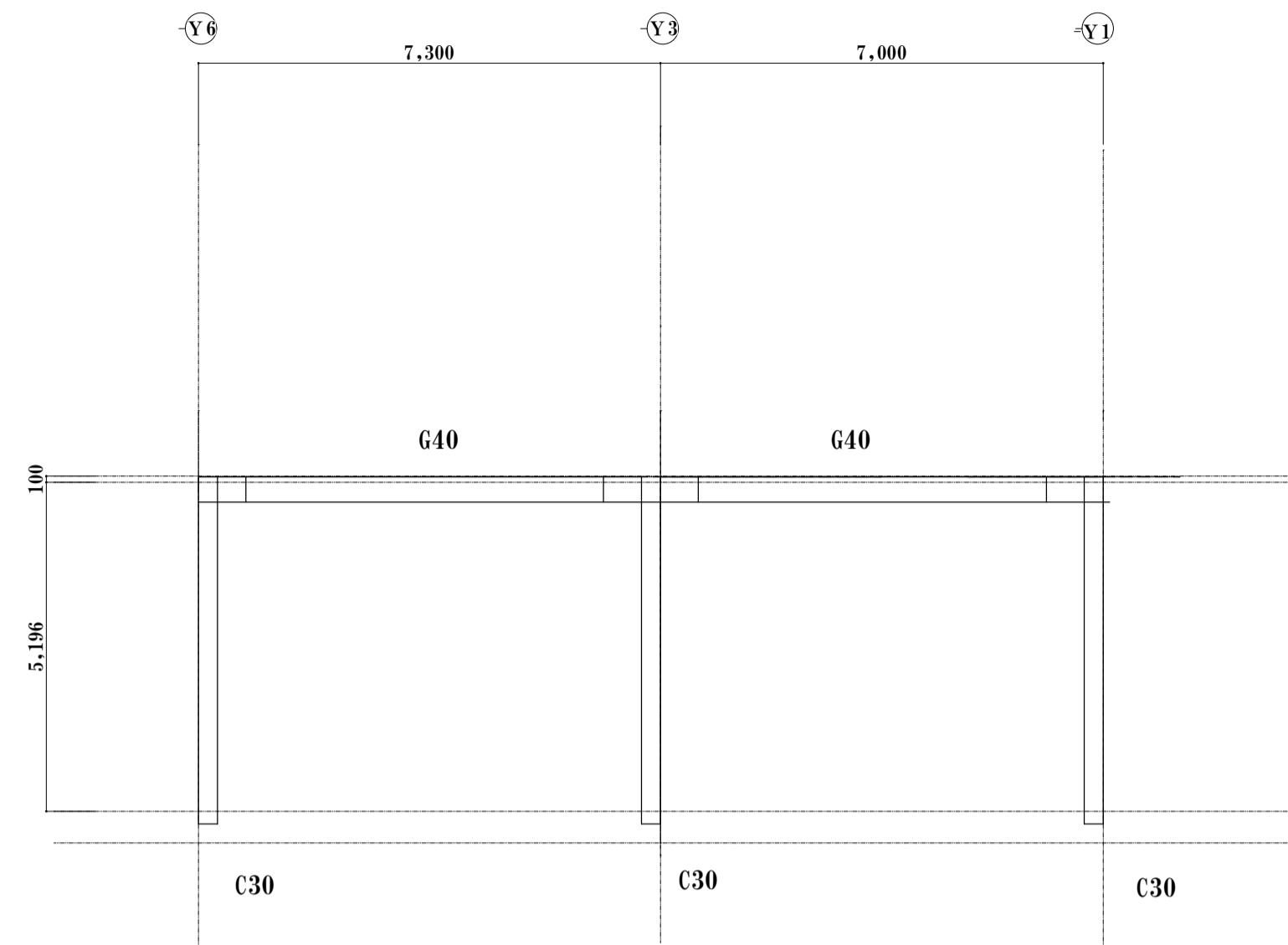
X3通



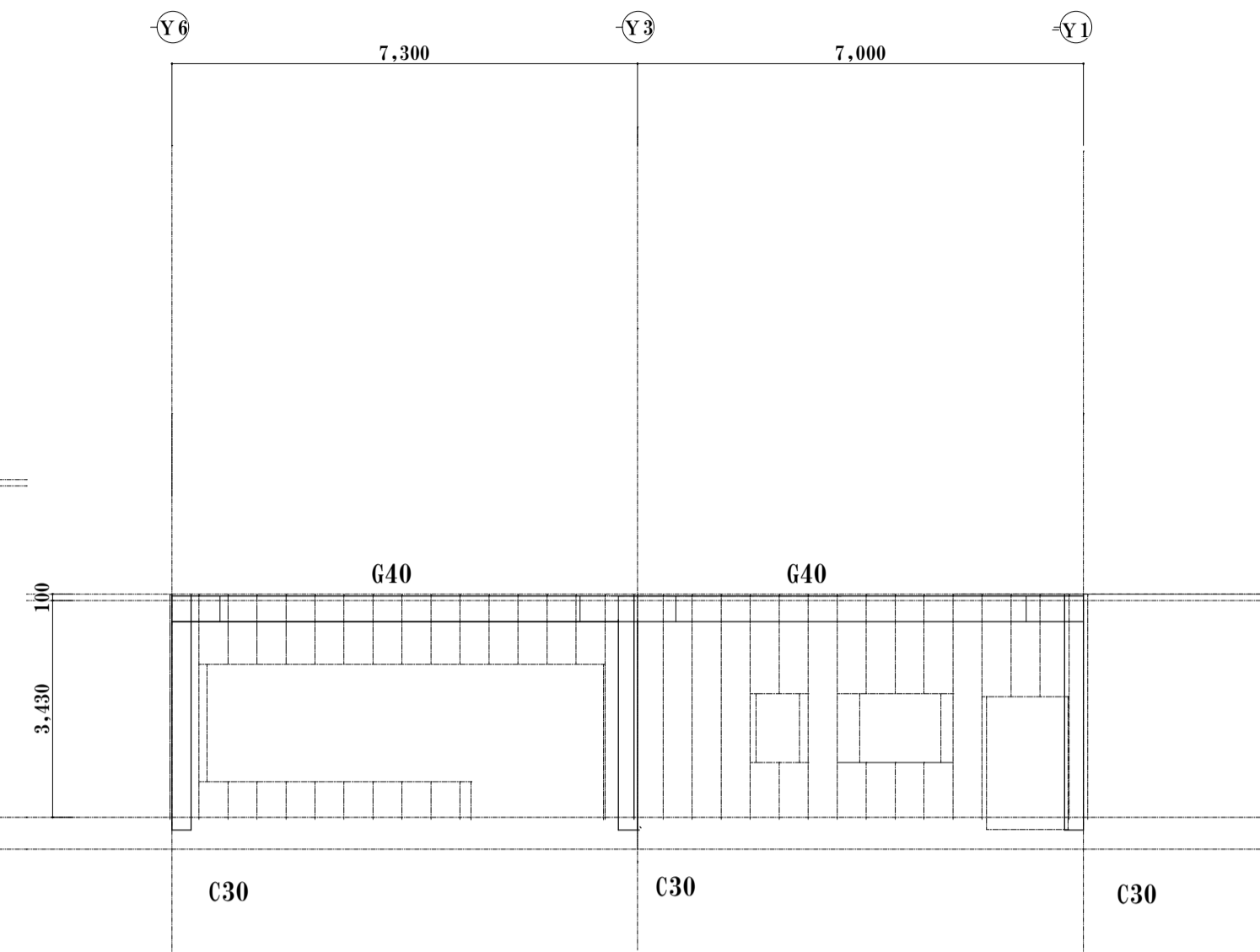
X5通



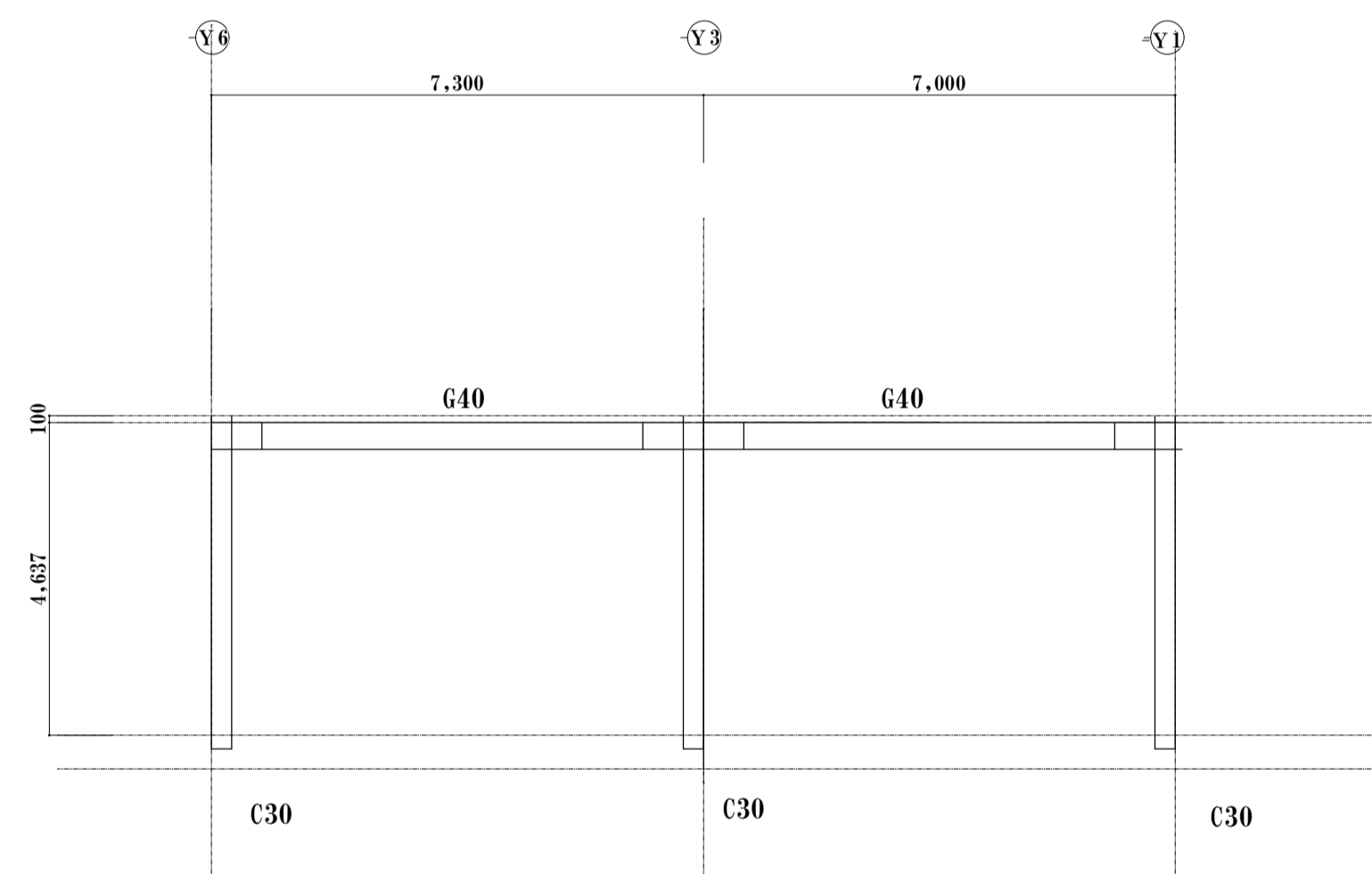
X8通



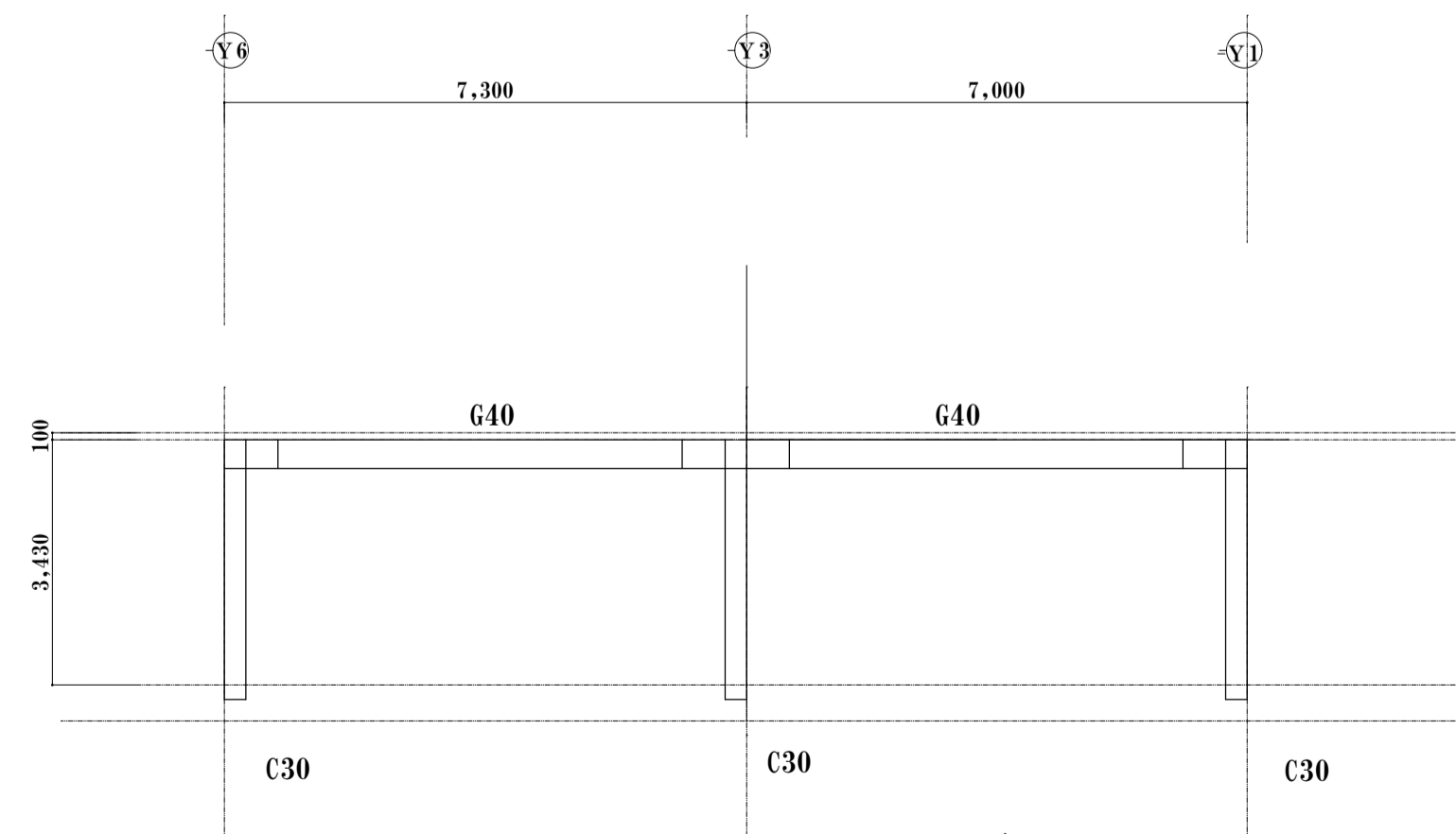
X9通



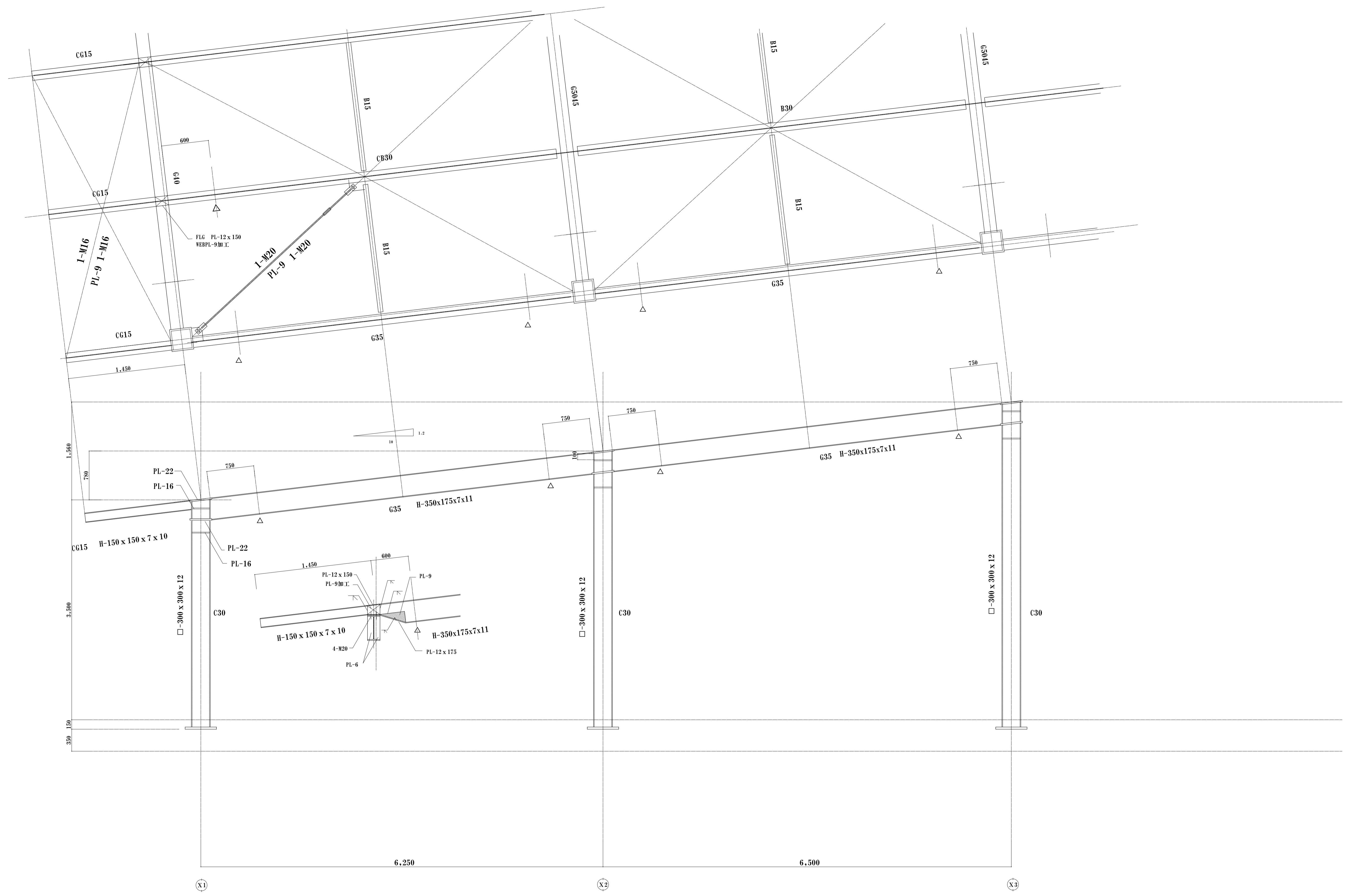
X12通



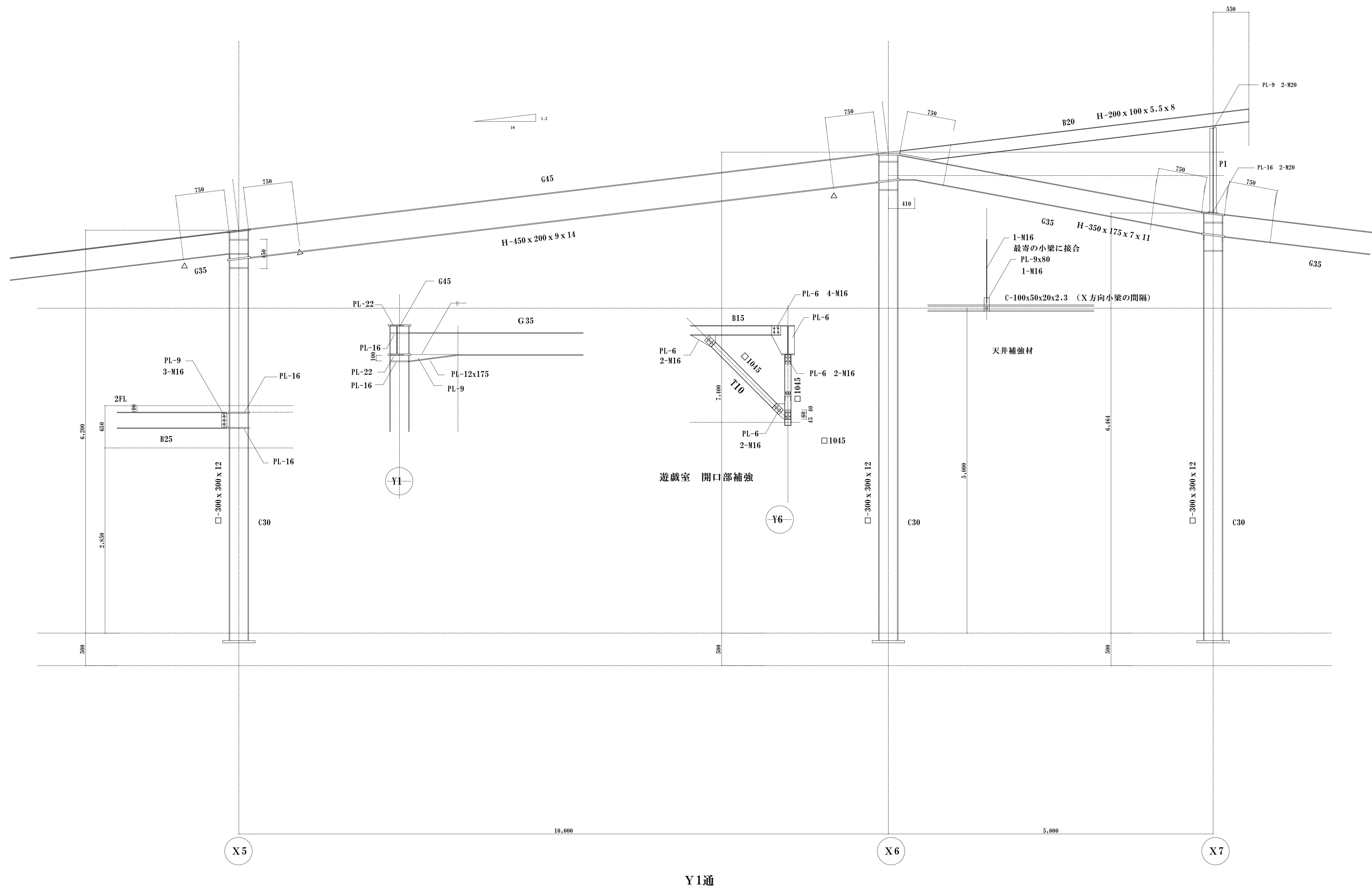
X10通

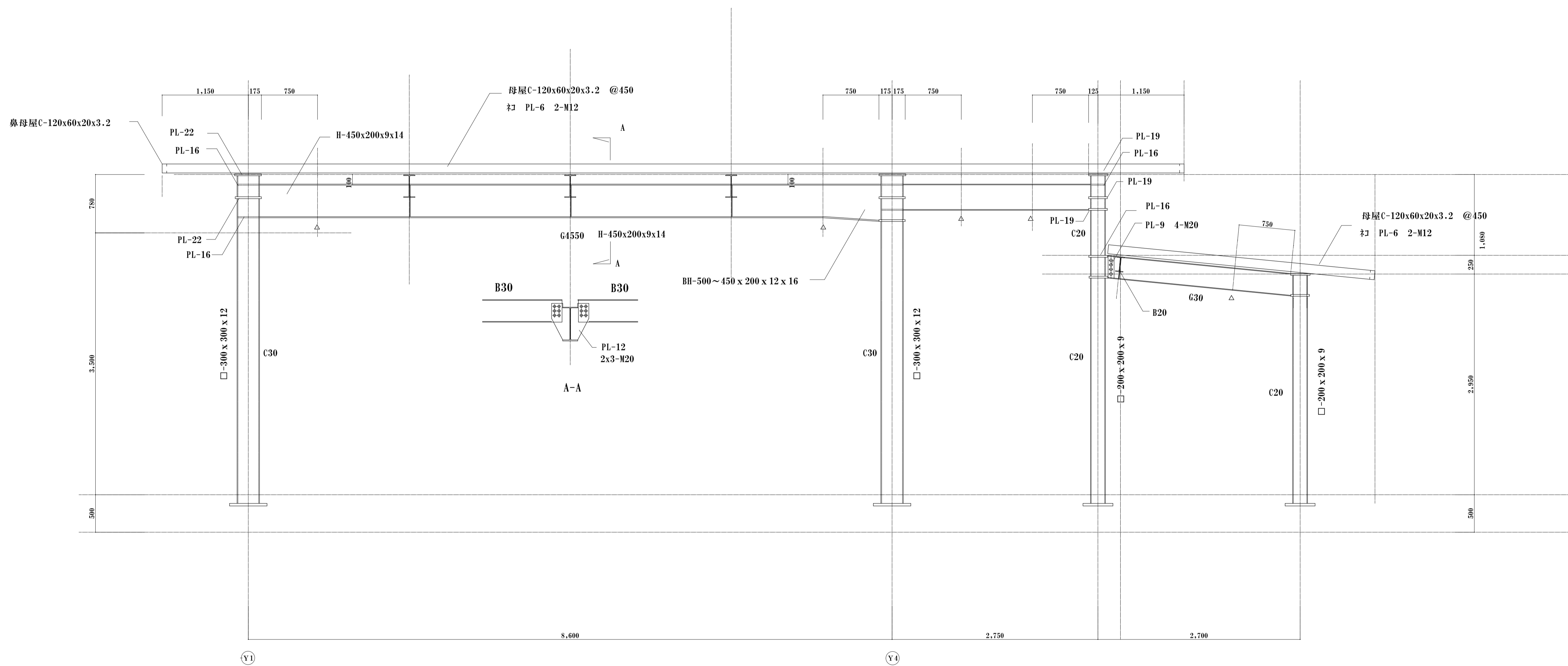


X11通



Y1通





X 3 通

§ 1 一般事項

1-1 地耐力

1-2 地盤改良
建屋内部土間 厚120mm 土間下地盤改良 改良厚500mm 80kg/m³ 混入
建屋外周土間 厚150mm 砕石厚120mm 土間下地盤改良 改良厚500mm 80kg/m³ 混入

1-3 使用杭 G-ECSバイル回転圧入工法 (認定工法)

杭 径	杭 耐力	杭 長			杭 種		
		上 杭	中 杭	下 杭	上杭	中杭	下杭
190.7φ x 7.0		4.5m			STK490		
216.3φ x 8.3		4.5m			STK490		

試験杭又は試験掘りの結果に依り、基礎仕様決定を行う。

1-4 コンクリート
躯体一般...Fc 21N-18-25 土間コンクリート...Fc 21N-15-25
捨コンクリート...Fc 18N-15-25 ラブコンクリート...Fc 18N- 8-40
デッキコンクリート...Fc 18N-18-25 コンクリート圧縮試験は各打設工程毎
7x5ピース12本を採取し現地養生、標準養生の1週及び4週の試験を行う。係員の承認があれば上記試験を省略する事が出来る。

1-5 鉄筋
D16以下 SD295A JIS規格品 D19以上 SD345 JIS規格品
いずれもMFT提出 継手はD16以下は重ね継手、D19以上はガス圧接継手を原則とし、係員の承認が得られれば重ね継手としてよい。

1-6 その他
設計図に記載なき場合は 本標準図 に従い、本標準図に明記なき場合は JASS 5 による。

§ 2 共通事項

2-1 鉄筋の表示記号

記号	1	1	●	x	●	○	●
鉄筋	6φ	D10	D13	D16	D19	D22	D25

- フックのない場合
- フックのある場合
- 本数に差がある場合
- 圧接継手表示

2-2 鉄筋の折り曲げ
SD295A、SD345 d:鉄筋の公称直径

鉄筋末端部			
鉄筋の折り曲げ角度	図	鉄筋の曲げ内法寸法	鉄筋の余長
180°		D16以下 : 3d以上 D19以上 : 4d以上	4d以上 6d以上 8d以上
135°			
90°			
鉄筋中間部			
鉄筋の折り曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所	鉄筋径の区分 鉄筋の曲げ内法寸法
90°以下		あばら筋 帯筋	D16以下 : 3d以上 D19以上 : 4d以上
		上記以外	D16以下 : 4d以上 D19以上 : 6d以上 D25以下 : 6d以上

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

コンクリート設計の標準強度	重ね継手の長さ(L1)	定着の長さ(L2)	定着の長さ(L3)	
			小梁	床版
N16以上 N18以下	45dまたは35d7ヶ付	40dまたは30d7ヶ付	25dまたは15d7ヶ付	10dまたは15cm以上
N21以上 N24以下	40dまたは30d7ヶ付	35dまたは25d7ヶ付		

1 末端の7ヶ付は、定着長さに含まない。
2 d は鉄筋の公称直径とする。
3 耐圧スラブの下端筋の定着長さは L2 とする。
4 直径の異なる重ね継手長さは、細い方の d による。

2-4 継手一般
1 圧接継手
2 重ね継手 (下記いずれかとする。)
3 D19以上はガス圧接としなければならない。
4 鉄筋径の差が5mmを超える場合はガス圧接を行ってはならない。

2-5 鉄筋のあき
異形鉄筋 1.7d以上、且32mm以上
鉄筋のあき
鉄筋径が異なる場合は大きい方による。 d : 鉄筋の公称直径

2-6 かぶり厚さ

部 位	屋 内	屋 外
土に接しない部分	スラブ、非耐力壁 30 ※40	柱、梁、耐力壁 40 ※50
土に接する部分	擁壁、耐圧スラブ 50 50	スラブ、耐力壁、柱、梁 50 50
	基礎、擁壁、耐圧スラブ 70 70	
煙突等高熱を受ける部分	70	70

※印は耐久性上有効な仕上げの有る場合は係員の承認を受け、10mm減ずる事ができる。
打ち直し仕上げに対しては10mm以上打ち増す事。

§ 3 柱

3-1 主筋の定着 帯筋

- 鉄骨柱脚根巻の場合
頂部7ヶ付(溶接7ヶ付) 3-D13
1.5P
1.5P
1.7d以上、且32mm以上
主筋をコーナーに寄せる。主筋は折り曲げない。
- 鉄骨露出柱脚の場合
P : 設計ビツ以下
設計7ヶ付
1.5P
1.5P
主筋は各方向共均等に割り付ける。

3-2 埋め込み型柱脚

3-3 帯筋の加工
○135度7ヶ付の場合 交互配列
○溶接7ヶ付の場合 2d L 2d
○中子筋 60以上
L : 片面溶接の場合 10d
両面溶接の場合 5d

§ 4 地中梁

4-1 主筋の継手及び定着
1 地中梁
○ハッチ内に継手を設ける事。
○圧接の場合は柱面又は梁面より500以上離す。
○地反力を受けない場合
○地反力(抗反力)を受ける場合
○梁成が異なる場合
2 地中小梁
○ハッチ内に継手を設ける事。
○圧接の場合は柱面又は梁面より500以上離す。
○地反力を受けない場合
○地反力(抗反力)を受ける場合

4-2 あばら筋
○第一あばら筋は柱面に入れその間を設計ビツ以下に割り付ける。
○②、③はスラブ付きに限る。
○③、④は地中梁で梁成の大きい場合。
○溶接継手は帯筋の項を参照の事。
○段落とし主筋の定着部から10cmの範囲内に横補強筋を配筋する。

4-3 補助筋

腹筋	D < 600	不要
腹筋	600 ≤ D < 900	2-D10 (1段)
腹筋	900 ≤ D < 1,200	4-D10 (2段)
受筋	D ≤ 1,200	D13-φ500以内
受筋		D10-φ600以内

4-4 梁の貫通補強
あばら筋と同数、同径 φ100 環状筋(溶接金網に溶接)
○梁貫通孔は梁成の1/3以下とする。
○孔が複数の場合は中心間隔を孔(φ)の3倍以上とする。
○位置はスラブ中央部分L0/2の範囲内で梁成の中央とする。
○φが100未満のとき補強を必要としなし。
○φが150以下のとき補強筋は縦横斜共 2-D13 とする。
○溶接金網のビツは100以下とし梁の両面入れる。
○環状筋は溶接金網と溶接する。

§ 5 床版

5-1 鉄筋の定着

5-2 継手

	標準継手位置	
上端筋	短辺方向	B D
	長辺方向	A B
下端筋	短辺 長辺方向	A C D

ベタ基礎の耐圧スラブは上端、下端を逆にする。

5-3 開口補強
開口面積 A ≤ 0.3m² かつ L ≤ 0.6m
開口面積 0.3m² < A ≤ 1.0m² かつ L ≤ 1.0m

§ 6 壁

6-1 定着及び継手
6-2 壁配筋リスト

符号	壁厚	縦筋・横筋	端部筋	コーナー筋
W10	100	D10-φ150シケ	1-D13	1-D13
W12	120	D10-φ150シケ	1-D13	1-D13
W15	150	D10-φ150シケ	2-D13	1-D13
CB	100~150	D10-φ400シケ		

§ 7 基礎

7-1 独立基礎
7-2 杭基礎
7-3 ベタ基礎

杭頭補強筋
300φ : 4-D13 350φ : 4-D13 400φ : 6-D13
450φ : 8-D13 500φ : 8-D13 600φ : 8-D16

継手位置は 5-2項 で上端筋と下端筋を読みかえる。

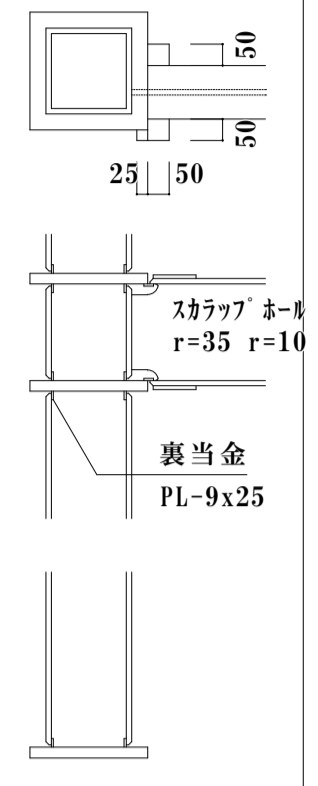
§ 8 その他

8-1 土間コンクリート
8-2 土間コンクリート補強
8-3 柱脚のコンクリート被服
8-4 打増し補強
8-5 増築予定

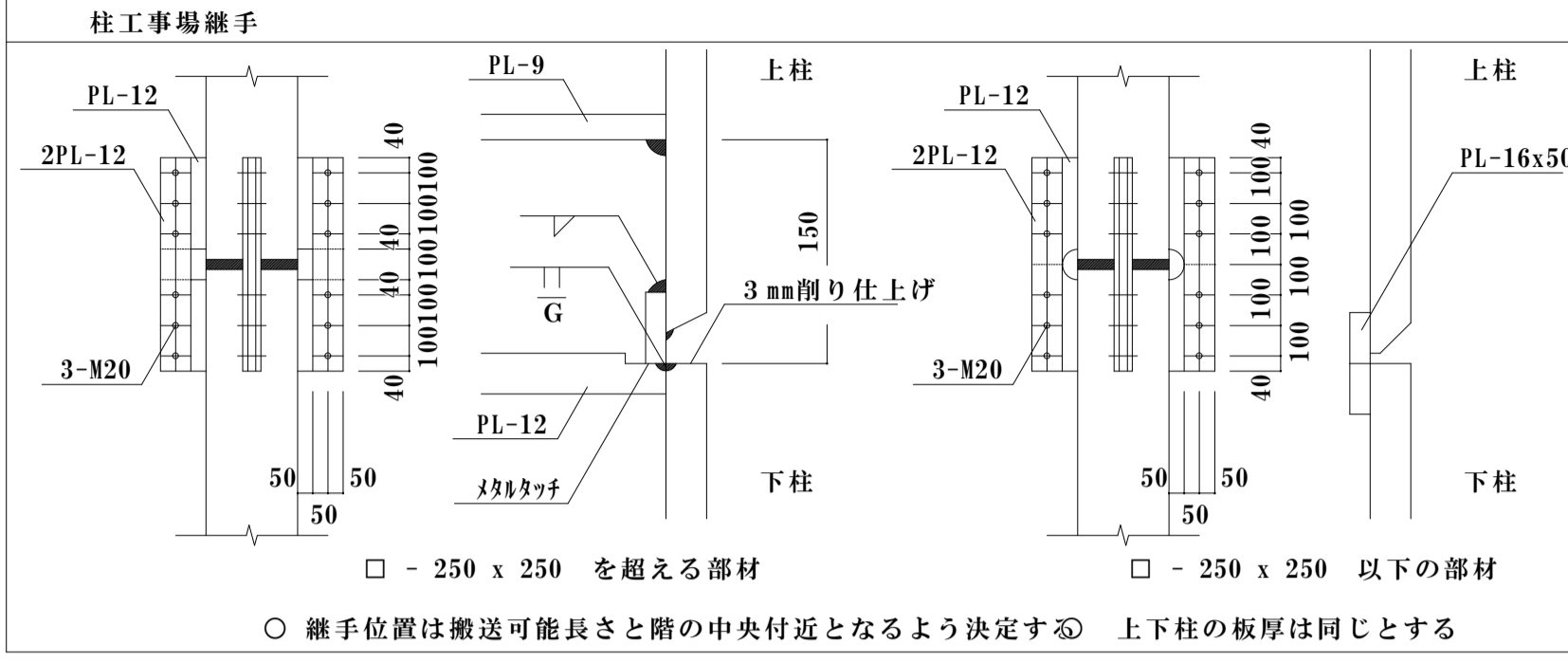
補強筋
t ≤ 50 : 補強筋不要 50 < t ≤ 100 : D13-φ300
100 < t ≤ 200 : D16-φ300 200 < t ≤ 300 : D16-φ200

パネルゾーン詳細図

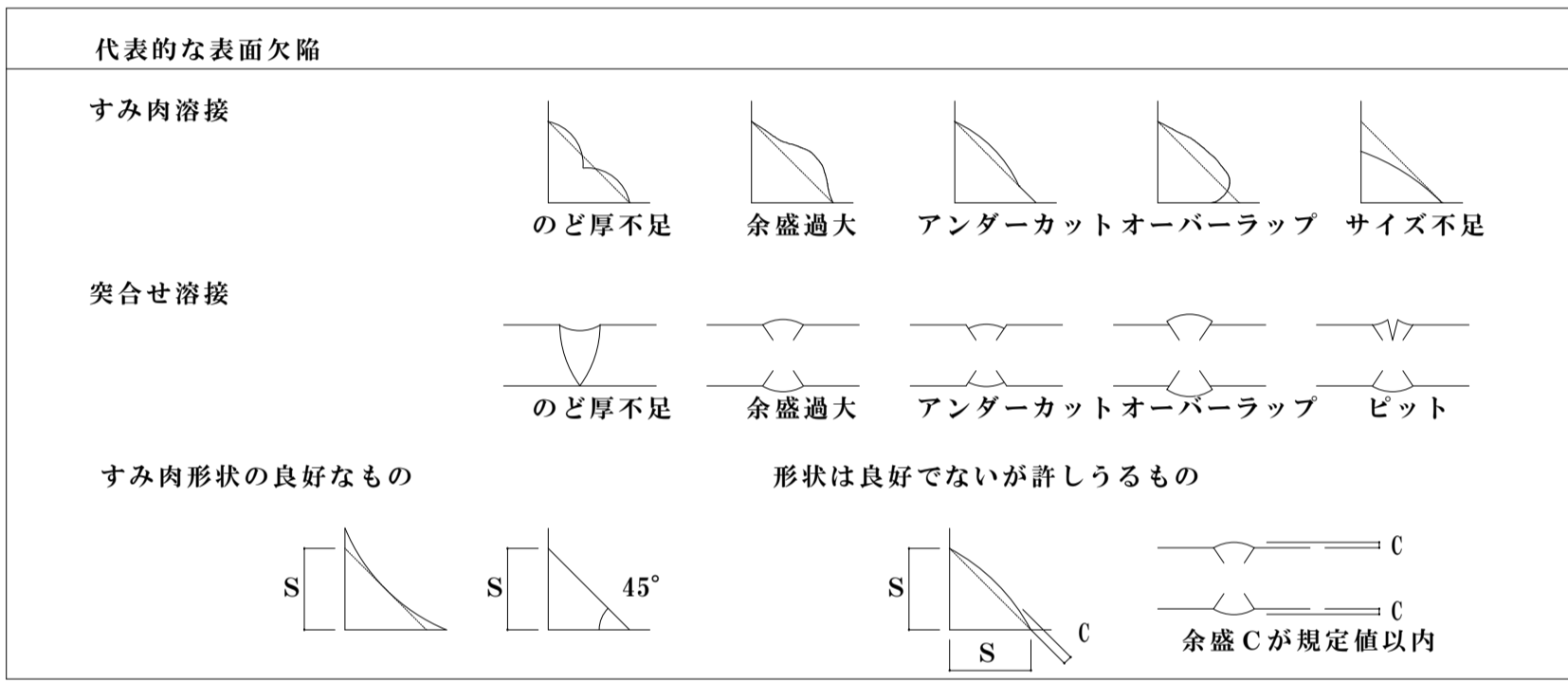
- パネルゾーンは右記の要領で作製する。
- ダイアフラムは梁フランジ厚を参考にダイアフラムリストに依り決定する。
- エンドタブの厚さは梁フランジ+補強プレート厚とする。
- エンドタブ及びエプロンプレートは15m/m程度離して、溶接完了後母材よりガス切断し、切断面は平滑に仕上げる。
- 裏当て金はエンドタブと同長分延長する。
- 仕口部分は、C02半自動溶接機を用いる。
- 溶接は、現場溶接以外は、全工程を通じ建屋内で行う。
- 現場溶接の関先内は、溶接直前にガス炎にてクリーニングを行う。
- C02半自動溶接の場合、風速 2m/sec以上ある場所で溶接を行ってはならない。
- 適当な、防風処置を講じた場合はこの限りでない。
- 本工事に従事する溶接工は、下記の資格を有する事。



- SN-2F SN-2V SA-2F SA-2V
- 全ての仕口開先溶接は超音波探傷試験を行う。
- 係員が必要と認めれば、技量付加試験を行う。
- 費用は、請負者負担とする。



すみ内サイズ		すみ内形状		すみ内溶接端部
板厚 t (mm)	サイズ (mm)	脚長	のど脚	
2.3	3.5	脚長	のど脚	25以上 エンドタブを取り付けて処理することを原則とする。 回し溶接出来る場合は、回し溶接が良い。 何れも無理な場合は、かえし溶接を行う。
3.2	4.8	脚長	のど脚	
4.0	6.0	脚長	のど脚	
4.5	6.0	脚長	のど脚	
t ≥ 6	t	脚長	のど脚	

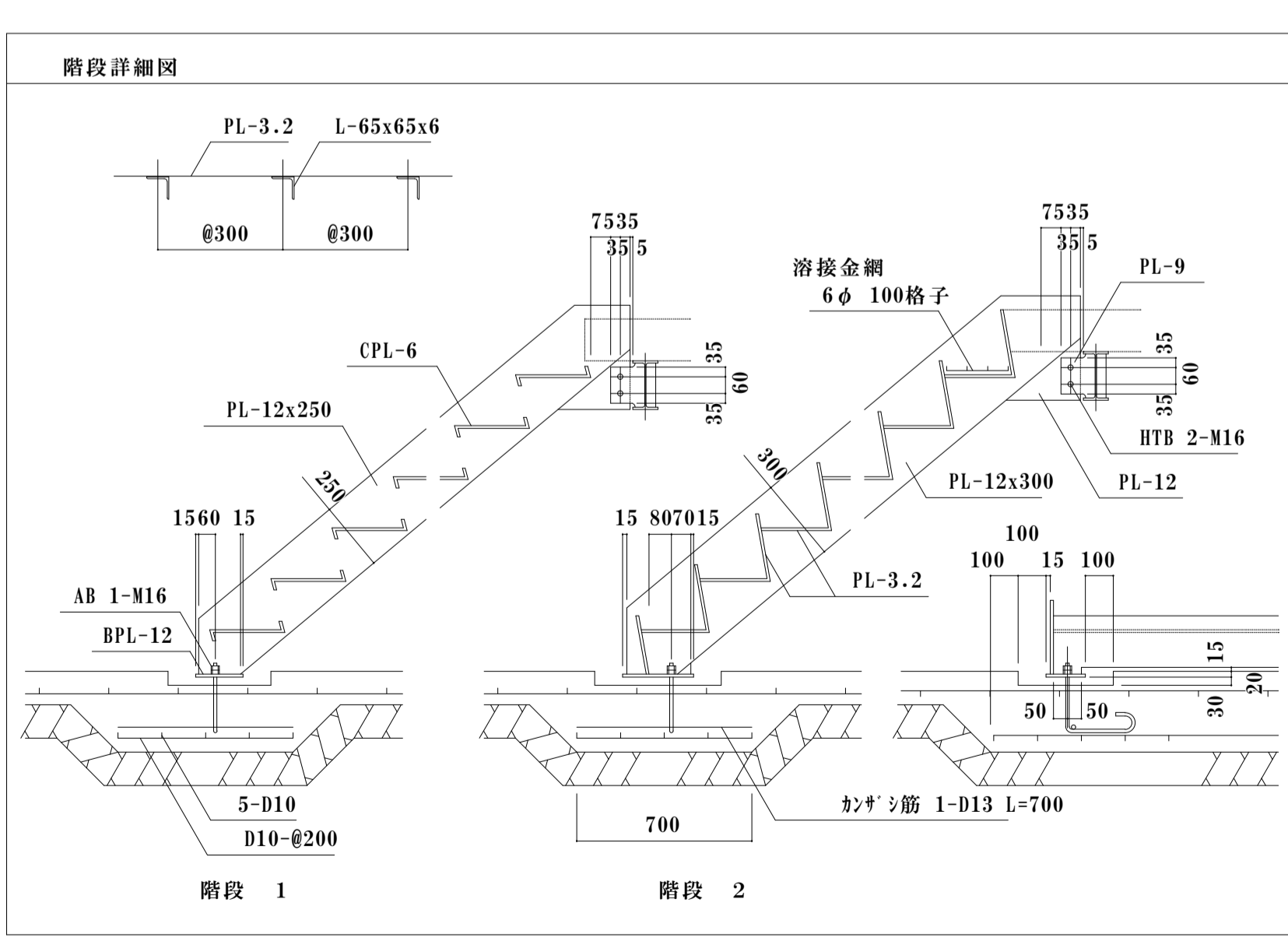
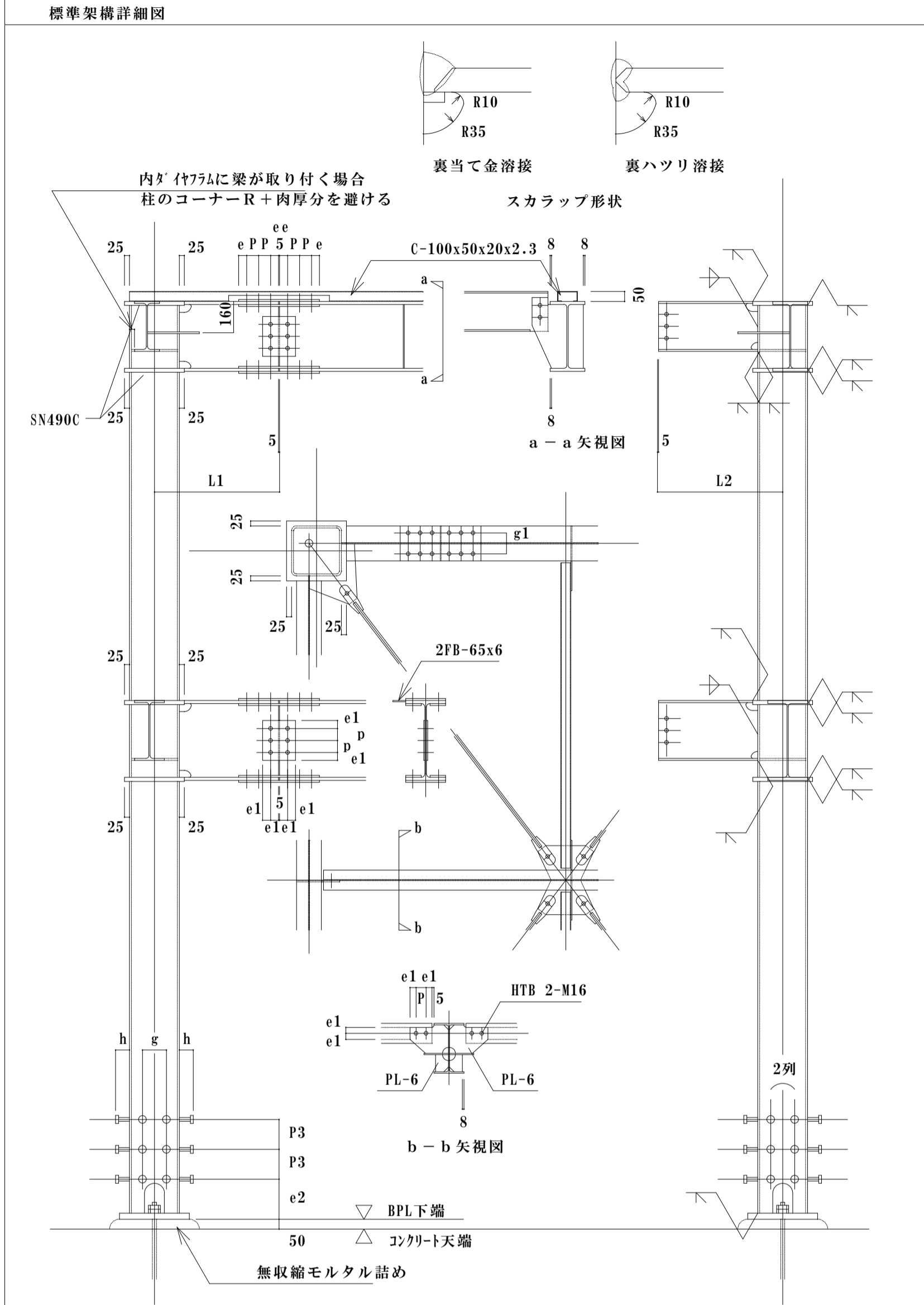
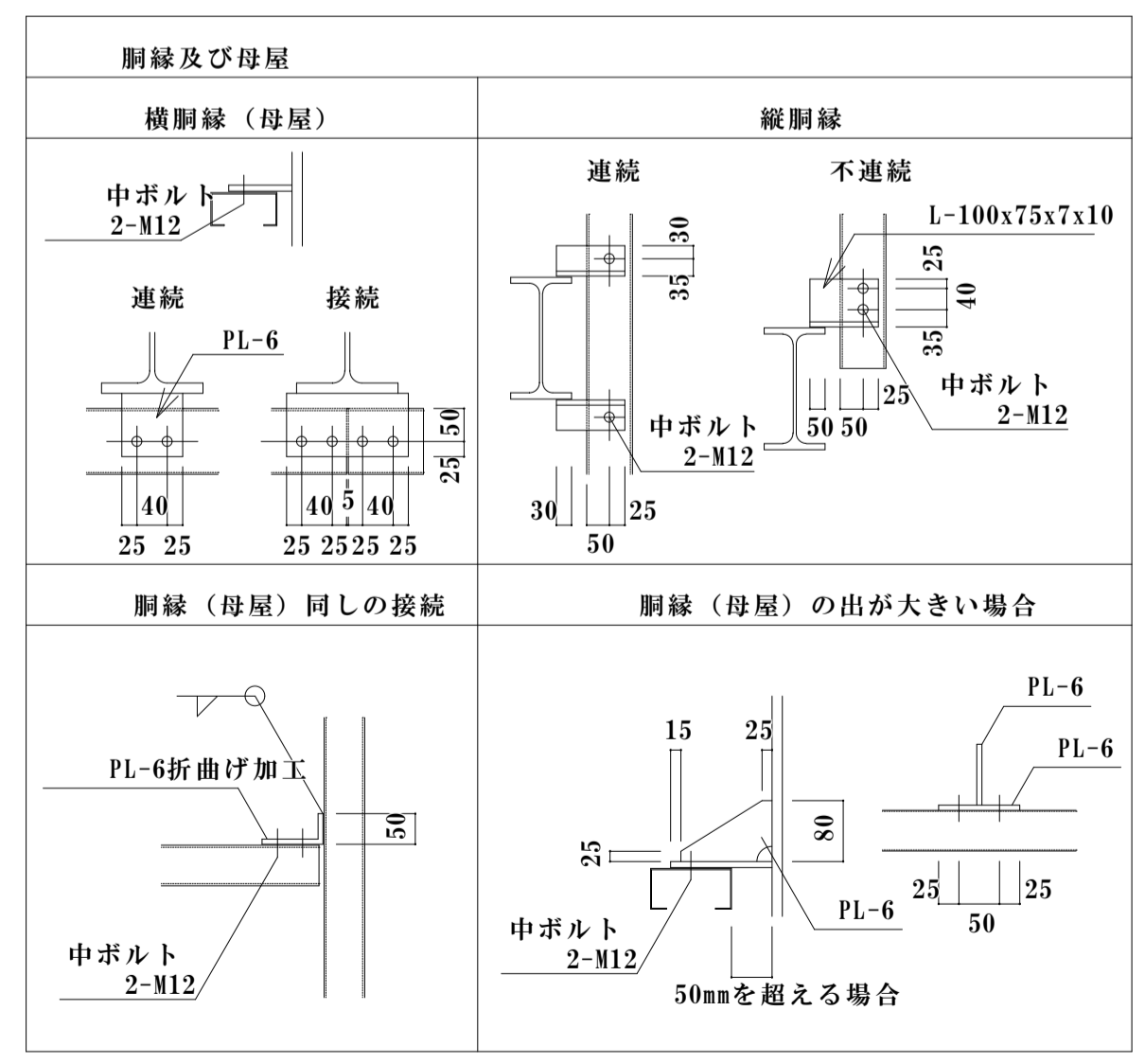
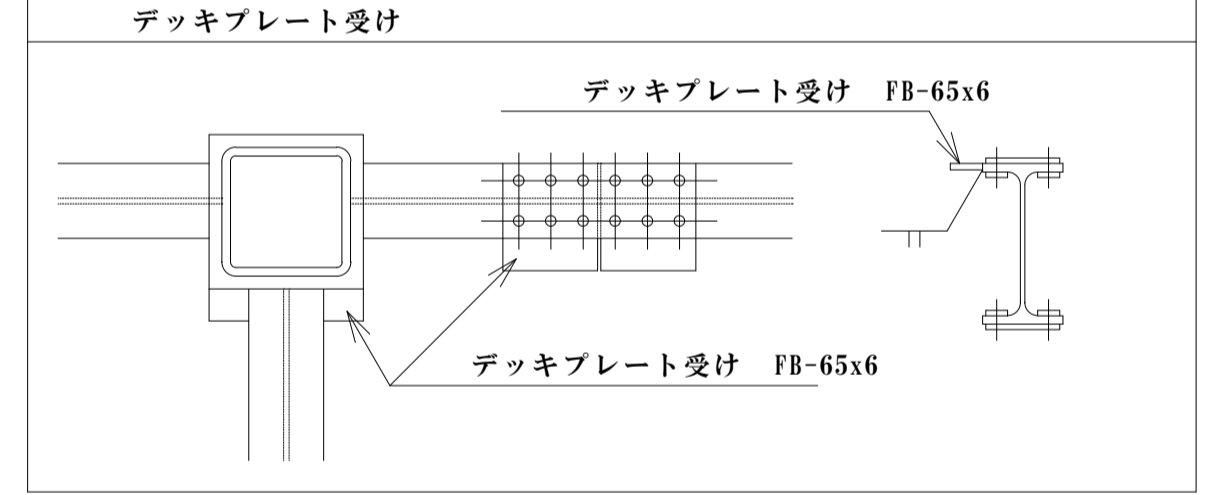
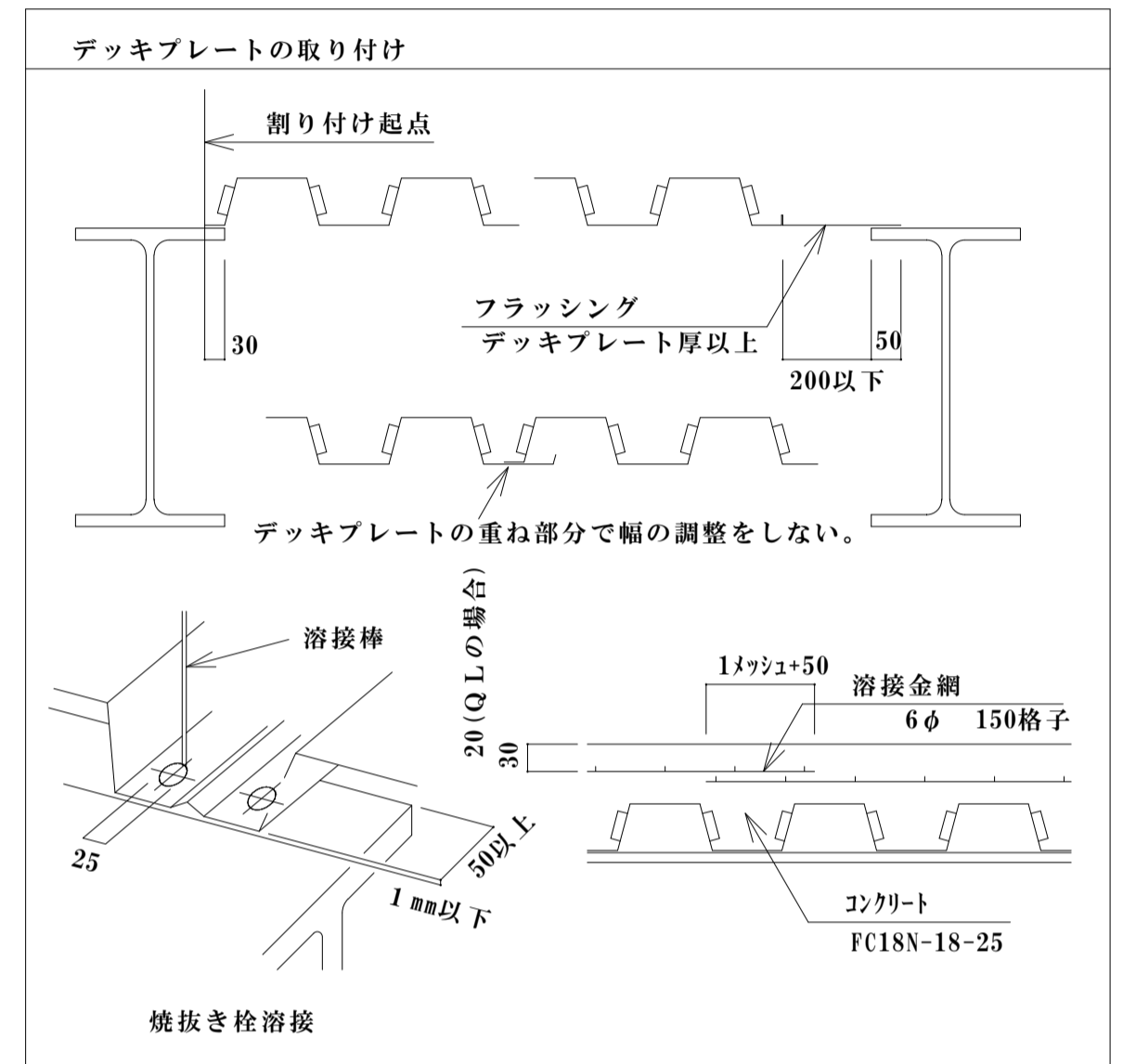
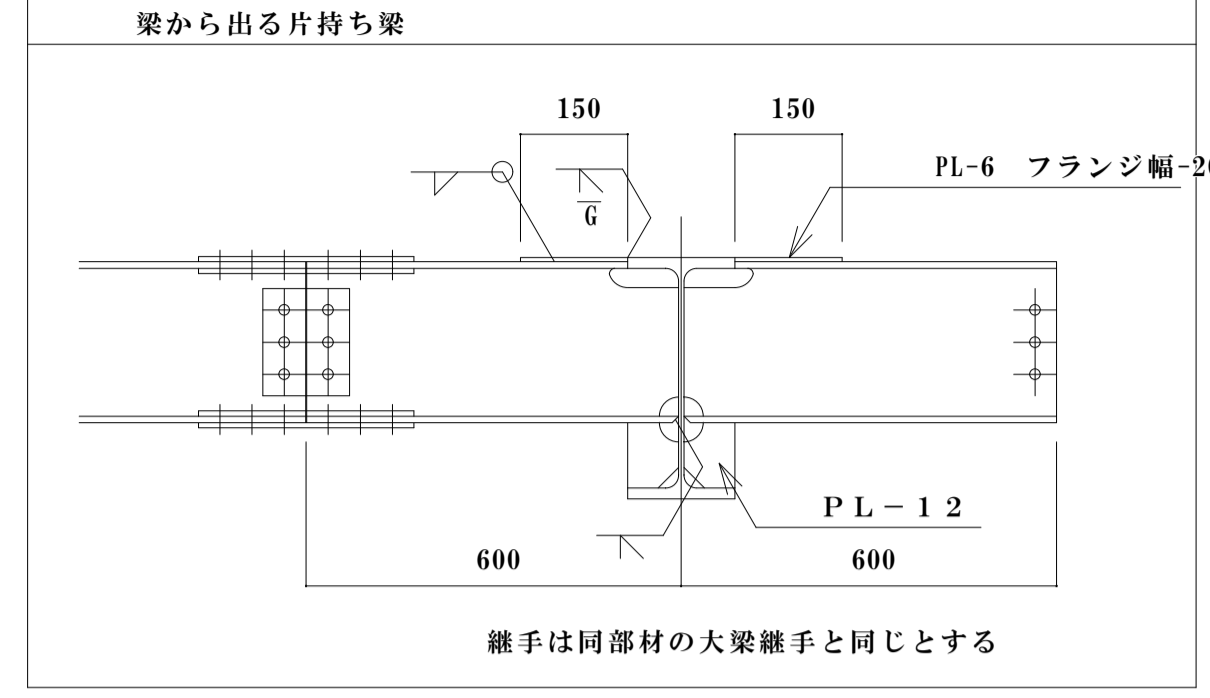


- 欠陥溶接の補正
- 1 オーバーラップ・余盛過大はグラインダーで平滑に仕上げる。アンダーカット・断面不足は4mm以下の溶接棒で溶着金属を盛り足す。
 - 2 割れの入った溶着金属は全長にわたって削除し再溶接する。超音波検査等により形状及び位置が明らかな場合割れの端から50mm以上削り取ればよい。
 - 3 母材に割れが入った場合関係者立ち会いで検討し母材の取り替えか補修が善処する。

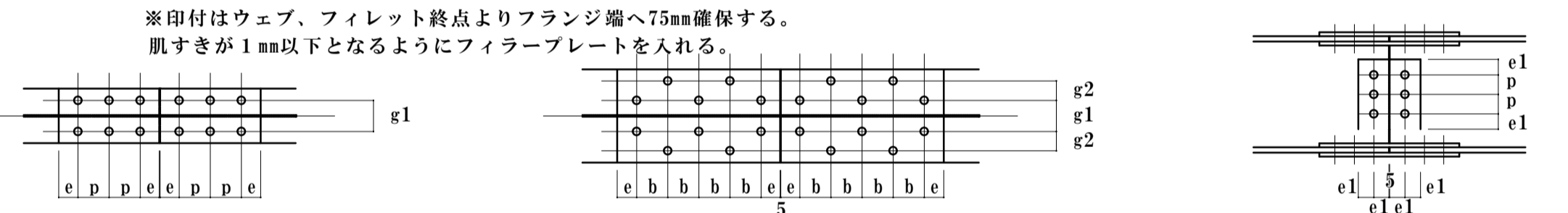
加工に誤差が生じた場合の補正

- 係員が認めれば下記の補正を行ってもよい。

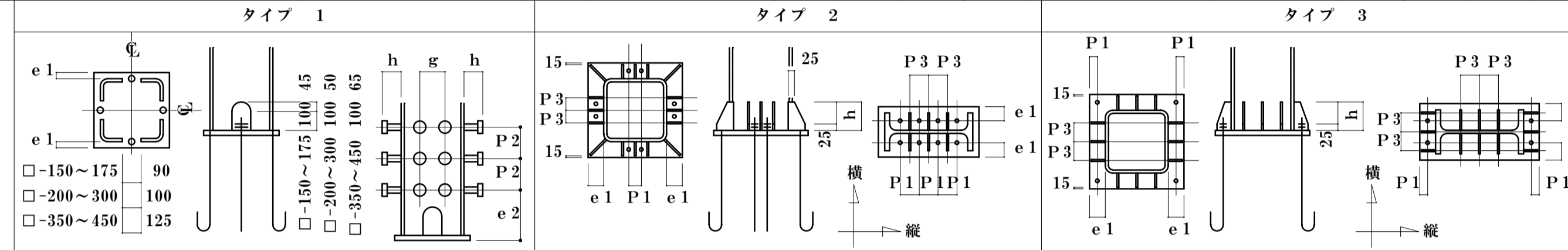
突合せ溶接の場合	すみ内溶接の場合
1 所定のルート間隔 ~ 12mm PL-6の裏当て金	1 2mm以下 そのまま溶接を行う 2mm以下
2 12mmを超えた場合 300mm以上 板の全部又は、一部の変更	2 2mm ~ 5mm a = 2を超え5mm以下 L = S + a S : 規定サイズ
3 上下差が大きい場合 2つ割裏当て金	3 5mmを超える場合 6mm 45°以上 裏当て金 PL-6以上 3mm以下 t/4



大梁リスト				
符号	部材	継手呼称	備考	添え板
角肉溶接				
径	本数	p	e1	
GM48	H-488 x 300 x 11 x 18	GGF-4X-J5030-1219-20		
GM58	H-588 x 300 x 12 x 20	GGF-4X-J6030-1219-20		
GM20	H-194 x 150 x 6 x 9	GGF-4X-J2015-0609-20		
cGM15	H-150 x 150 x 7 x 10			
GM29	cGM29 H-294 x 200 x 8 x 12	GGF-4X-J3020-0612-20		
CG15	H-150 x 75 x 5 x 7			
(この表は図面に記載されている部材のみに限ります。)				
G35	H-350 x 175 x 7 x 11	GGF-4X-J3517-0612-20		
G40	H-400 x 200 x 8 x 13	GGF-4X-J4020-0912-20		
G45	H-450 x 200 x 9 x 14	GGF-4X-J4520-0916-20		
G50	H-500 x 200 x 10 x 16	GGF-4X-J5020-0916-20		
G30	H-300 x 150 x 6.5 x 9	GGF-4X-J3015-0609-16		
G545	端部 BH-500 x 200 x 12 x 16	GGF-4X-J5020-0916-20		
G545	中央 H-450 x 200 x 9 x 14			
CG15	H-150 x 150 x 7 x 10			
CB25	H-250x125x6x9	GGF-4X-J2512-0609-16		
T10	方杖 □-100 x 100 x 4.5			

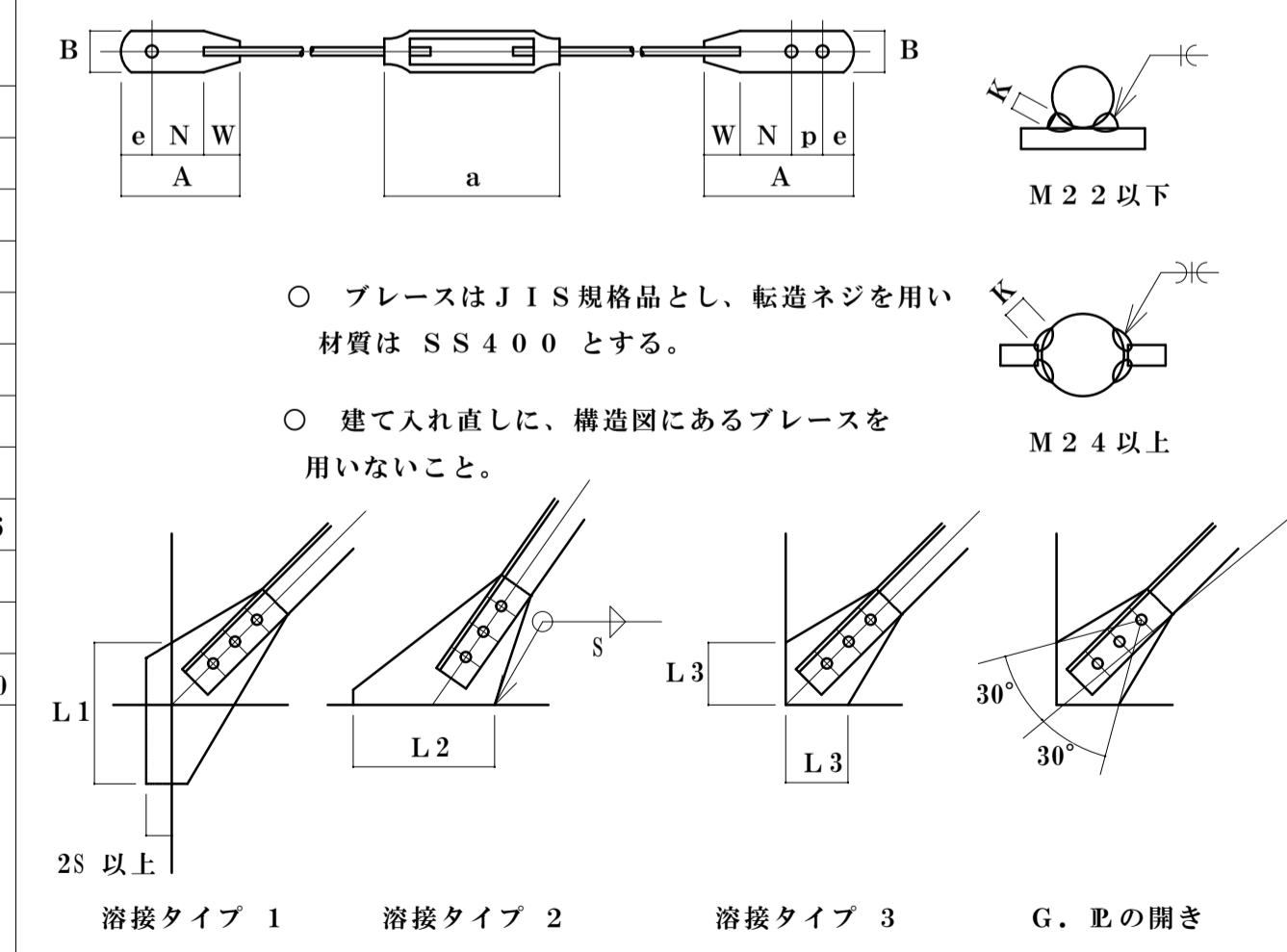


柱リスト															
符号	部材	ベースプレート (厚 x 縦 x 横)	アンカーボルト					柱脚タイプ 1				柱脚タイプ 2、3			
			径	本数	L	P1	e1	スタッドボルト				リブプレート			
					径(φ)	本数	列	g	h	P2	e2	全枚数	IL	h	P3
(C30)	□-300x300x12	BCR295	EB300	ハイバース neo 4-30											
(C20)	□-200x200x9	BCR295	EB200	ハイバース neo 4-24											
(P1)	H-100x100x6x8	PL-12x125x125	M20	2											
P25	H-250 x 125 x 6 x 9	PL-19 x 225 x 300 SS400	M20	4											



ダイヤフラムリスト						
フランジ厚	8 ~ 9	11 ~ 14	15 ~ 18	20	24	26 ~ 28
ダイヤフラム厚	HL-12	HL-16	HL-19	HL-22	HL-25	HL-32
備考	柱肉厚及び、柱に取り付く梁の最も厚いフランジで、ダイヤフラム厚を決定する。内ダイヤフラムに取り付く外付け梁は、柱外端より柱コーナーR+柱肉厚分離す。					

ブレースリスト														
符号	径	羽子板				a	ガセットプレート				高張力ボルト			
		T x B x A	N	W	e, p, K		t x b	溶接	L2	L3				
M12	4.5	38	125	50	40	35	6	200	6	60	5	45	40	1-M12
M16	6	50	160	60	55	45	7	250	6	75	5	60	50	1-M16
M20	9	65	195	70	75	50	8	300	9	85	8	65	60	1-M20
M22	9	75	215	75	85	55	9	330	9	85	8	75	65	1-M22
M24	9	75	255	70	85	50	10	350	12	100	10	85	70	2-M20
M27	9	90	265	75	90	50	11	400	12	100	10	105	90	2-M20
M30	12	90	290	85	95	55	14	400	12	110	10	125	95	2-M22
M33	12	100	310	90	110	55	15	450	12	110	10	145	100	2-M22



小梁リスト (鋼材種はSS400とする)											
符号	部材	ウェブ	ウェブ継手						備考		
			径	本数	p1	p2	e1	e2			
(B15)	sB15 H-150 x 75 x 5 x 7	PL-6	M16	2x2	40	60	40	40	1	タイプ 1 タイプ 2 タイプ 3 ○ 特記なき継手形状はタイプ2とする。 ○ 部番号の付した部材は横いとす。	
B17	sB17 H-175 x 90 x 5 x 8	PL-6	M20	2	60	60	40	40	2		
(B20) (Bb)	(B20) H-200 x 100 x 5.5 x 8	PL-9	M20	2x2	60	60	40	40	3		
sB20	H-200 x 100 x 5.5 x 8	PL-9	M20	2	60	60	40	40	2		
(B25)	sB25 H-250 x 125 x 6 x 9	PL-9	M20	3x2	60	60	40	40	3		
B24	H-248 x 124 x 5 x 8	PL-9	M20	3x2	60	60	40	40	2		
(B30)	H-300 x 150 x 6.5 x 9	PL-12	M20	3x2	60	60	40	40	3		
B29	H-298 x 149 x 5.5 x 8	PL-9	M20	3x2	60	60	40	40	2		
B35	sB35 H-350 x 175 x 7 x 11	PL-12	M20	3x2	90	60	40	40	3		
B34	H-346 x 174 x 6 x 9	PL-12	M20	3x2	90	60	40	40	2		
B39	H-396 x 199 x 7 x 11	PL-12	M20	5	60	60	40	40	2		
B40	H-400 x 200 x 8 x 13	PL-12	M20	5	60	60	40	40	2		
B45	H-450 x 200 x 9 x 14	PL-12	M20	5	70	60	40	40	2		
B50	H-500 x 200 x 10 x 16	PL-16	M22	5	70	60	40	40	2		
	□-100x100x2.3	PL-6	M16	2	60	60	40	40	1		

種部材リスト		
符号	部材	ボルト
母屋	C-120 x 60 x 20 x 3.2 @450	2-M12
脚縁	C-100 x 50 x 20 x 3.2 @450	2-M12
	開口補強 □-100 x 100 x 4.5	
備考	○ 軒先端の母屋はリスト部材を2本入れる。 ○ 横脚縁の場合開口部上下はリスト部材を2本入れる。 ○ 横脚縁の場合開口部両横はリスト部材を2本入れる。	

構造特記仕様書	
<input type="checkbox"/> 使用材料	SM材、SN材及び係員から請求のあった材料はミルシート提出の事。
<input type="checkbox"/> 鋼材	形鋼、平鋼、帯鋼・・・SN400 軽量形鋼・・・SSC400 ボックスコラム・・・STKC400 鋼管・・・STR400 角形鋼管・・・BCR295 デッキプレート・・・合成床版認定品 厚1.2 取り付けはメーカー仕様による。デッキプレート上の溶接金網は一般階：6φ-150格子 屋上階：6φ-100格子とする。 アンカーボルト・・・SNR490
<input type="checkbox"/> 高張力ボルト	F10T 建設省告示 1795号に適合する特殊高力ボルトを使用。
<input type="checkbox"/> 防錆塗装	JIS K 5622 2回塗 1回目1種 2回目2種を原則とする。冬期間等止むを得ない場合は、係員の承認を得て JIS K 5625 2回塗 1回目1種 2回目2種としてよい。建て完了後補修塗を行う。
<input type="checkbox"/> 素地調整	2種クレン(浮き錆、不安定な黒皮の除去) 摩擦面はボルト穴周辺のまくれ、返りを取り除き摩擦面をへこませないよう平グラインダーで座金径の2倍以上の範囲で、黒皮を除去し自然発錆の赤錆面とする。浮き錆となったもの(屋外放置で半月程度)は、面が光らないよう除去する。
<input type="checkbox"/> 溶接工場の承認	溶接工場は建設省告示 1103号の認定工場内、全構連認定のRグレード以上とする。
<input type="checkbox"/> 仕様書	提出書類 ① 工場名称 ② 溶接施工管理組織及びその責任者名簿 ③ 溶接に関する機械設備の概要 ④ 溶接工の名簿 ⑤ 溶接の施工、検査に関する社内規程 ⑥ 溶接に関する工事実績及び承認試験実績
	日本建築学会編各種標準仕様書及び、同鉄骨工事技術指針に依る。

ハイベースNEO工法設計施工標準

(ハイベースNEO工法 Gタイプは、S造及びCFT造に適用) (ハイベースNEO工法 Eタイプは、S造に適用)

2016/1

大臣認定
BCJ評定

※本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨構造設計規程、建築工事標準仕様書 JASS 4 鉄骨工、建築工事標準仕様書 JASS 5 鉄筋コンクリート工、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ (Eタイプ、EM型、EH型)

規格	JIS G3136 (鋼板)	JIS B1114 (六角ナット)	JIS G3144 (鋼板)	JIS G3141 (一般構造用圧延鋼材)
ベースプレート	鋼板	六角ナット	鋼板	鋼板
アンカーボルト	鋼板	六角ナット	鋼板	鋼板
ナット	六角ナット	六角ナット	六角ナット	六角ナット
座金	鋼板	六角ナット	鋼板	鋼板
定着板	鋼板	六角ナット	鋼板	鋼板

2. ベースプレート下面のモルタル

ハイベース工法鉄筋モルタルNX2000、又はクイック3

○無収縮性モルタルハック用 (固形) 又は普通モルタル (NX2000及びクイック3は使用不可、専用のモルタルを使用のこと。)

○強度はこれに載せるコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート: OH本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート」に適合する普通コンクリート (設計標準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$)

鉄筋: JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に定められる、熱間圧延異形棒鋼

2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ用アンカーボルト部品

ねじの呼び	ねじ長さ	ねじ径	全長	外径	高さ	二対角距離	二対角距離	内径	外径				
M24	21	3	105	39	100	445	29	39	36	42	6	25	44
M20	20	3	100	35	90	400	25	35	32	38	6	21	40
M16	16	4	76	25	70	305	18	25	22	28	6	17	36
M12	12	4	52	18	46	210	12	18	16	20	6	13	24
M8	8	5	22	9	13	100	5	9	8	10	6	9	12
M6	6	5	13	7	10	55	4	7	6	8	6	8	10
M4	4	6	28	10	18	100	7	10	10	12	6	11	15
M2	2	6	20	8	10	50	7	8	8	10	12	11	15

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)

各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t)	標準寸法 1m-50mm	許容範囲 30 ≤ t ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (em)	e ≤ 30mm	許容範囲 em ≥ 25mm

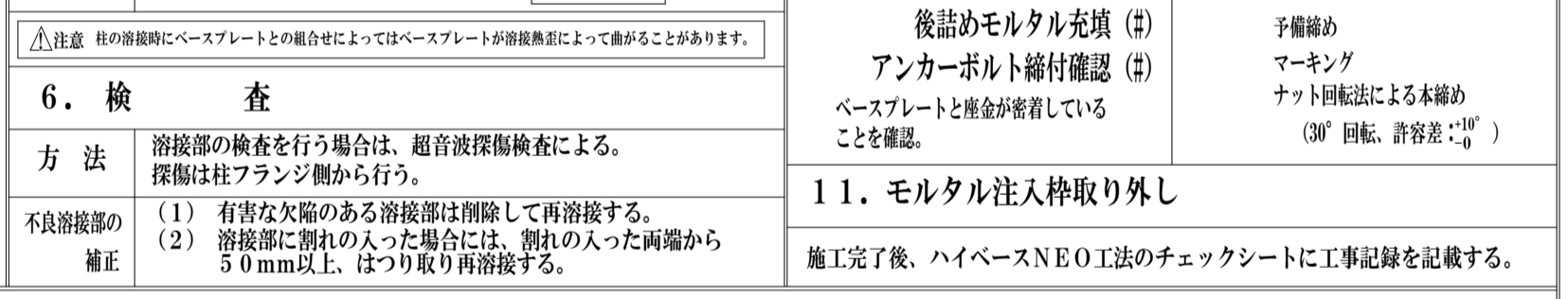
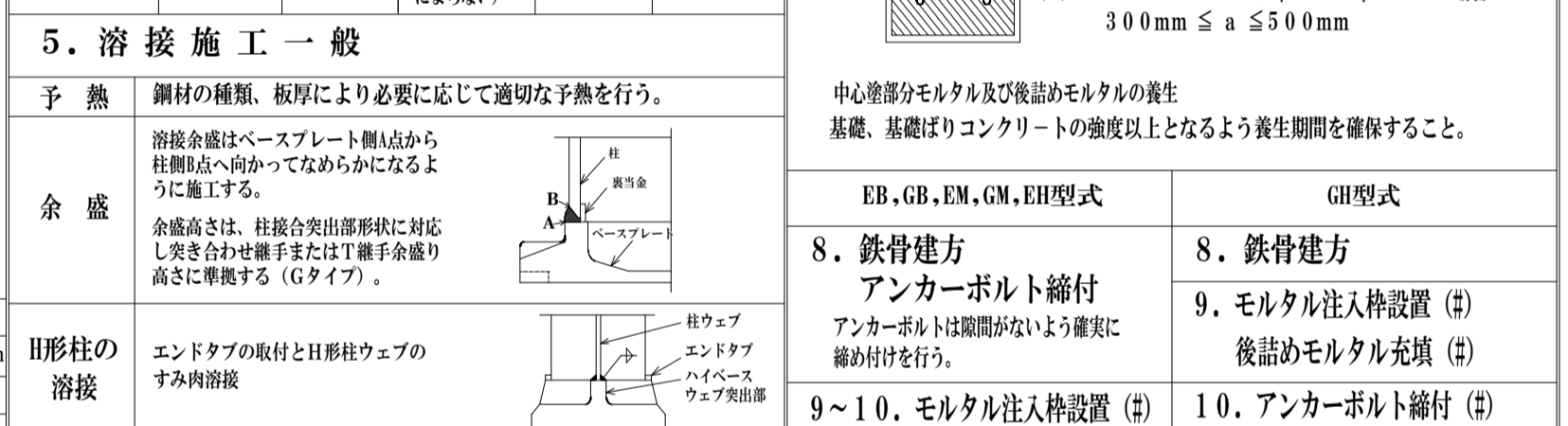
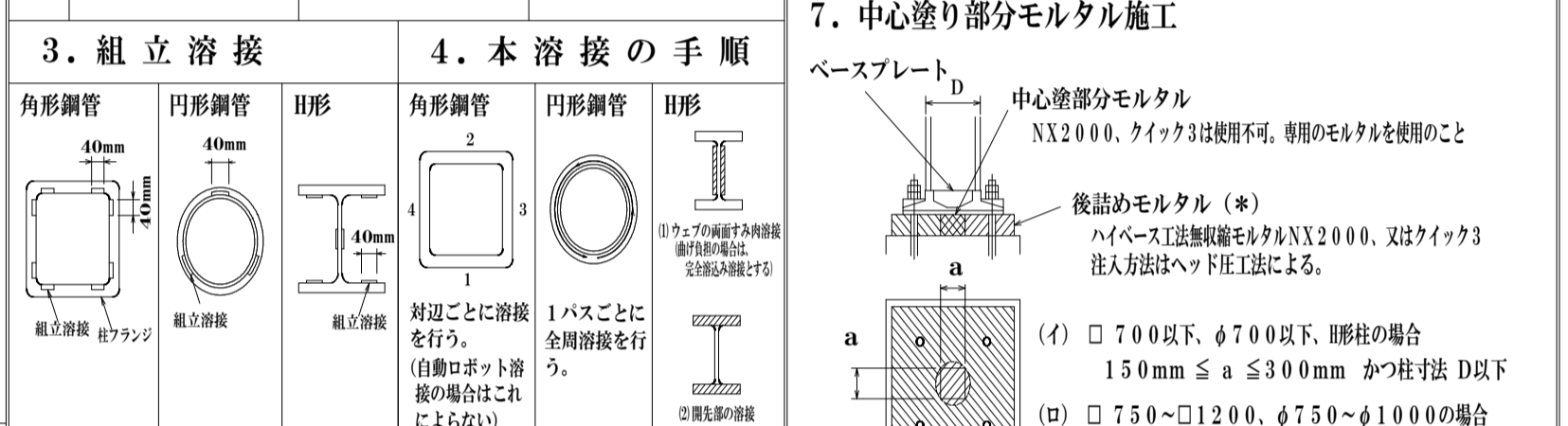
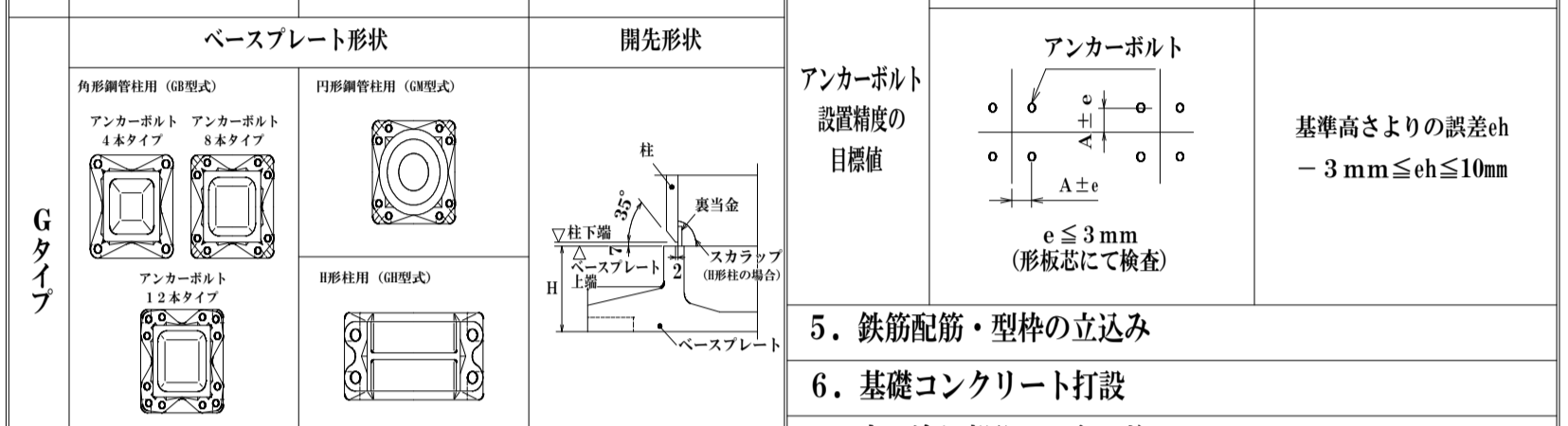
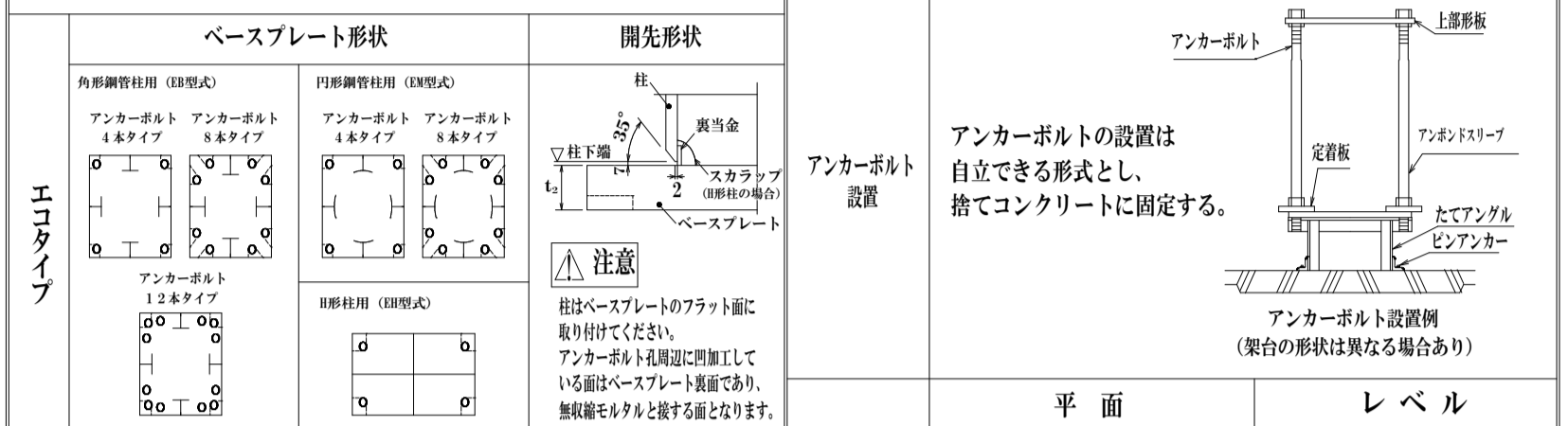
セクシア株式会社 (旧社名: 日立機材株式会社)

本社 TEL 03-3615-5432 関東 TEL 027-322-9411
札幌 TEL 011-708-1177 横浜 TEL 045-548-9881
東北 TEL 022-213-5595 中部 TEL 052-582-3356

設計 一級建築士登録第261836号 酒井 武志
担当 一級建築士登録第104960号 金山 泰夫

工場加工

- 溶接材料
 - 被覆アーク溶接: 低水素系490N/㎡品 最高張力鋼 (JIS T2312 S50E4相当品)
 - ガスシールドアーク溶接: 鉄鋼及び900/㎡品 最高張力鋼で鋼接用シールドワイヤ (JIS T2312 Y8P1相当)
- ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
 - ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接 (開先はMC-TL-B1、GC-TL-B1による) ※開先形状は参考



1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、セクシアが定められた業者が行うこと。(日本建築センターの評定で資格付けられています。)

2. アンカーボルト及びナットは加熱、油後、加工は絶対に行わないでください。

3. 設置後のアンカーボルトは、打ち金やコンクリートが付着しないようにねじ部の保護養生をしてください。

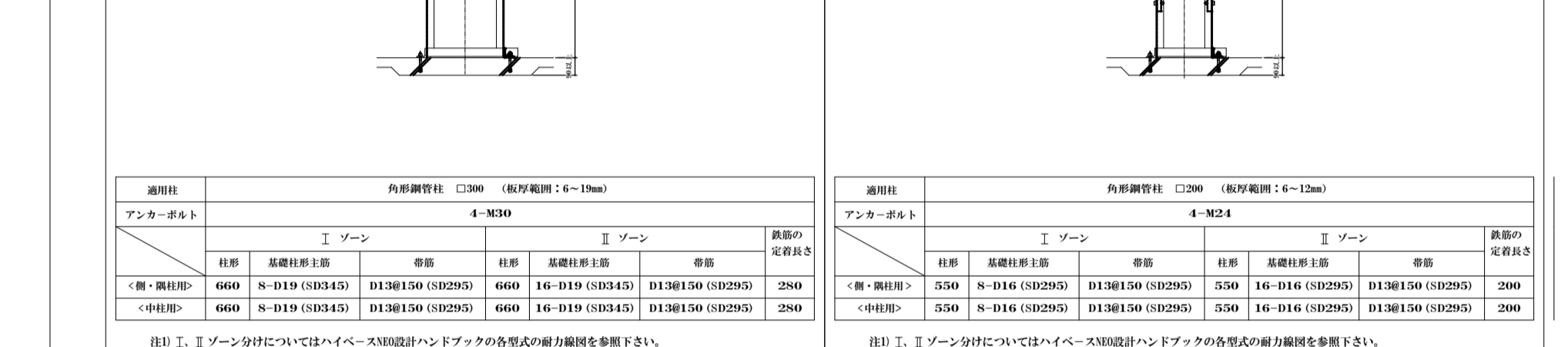
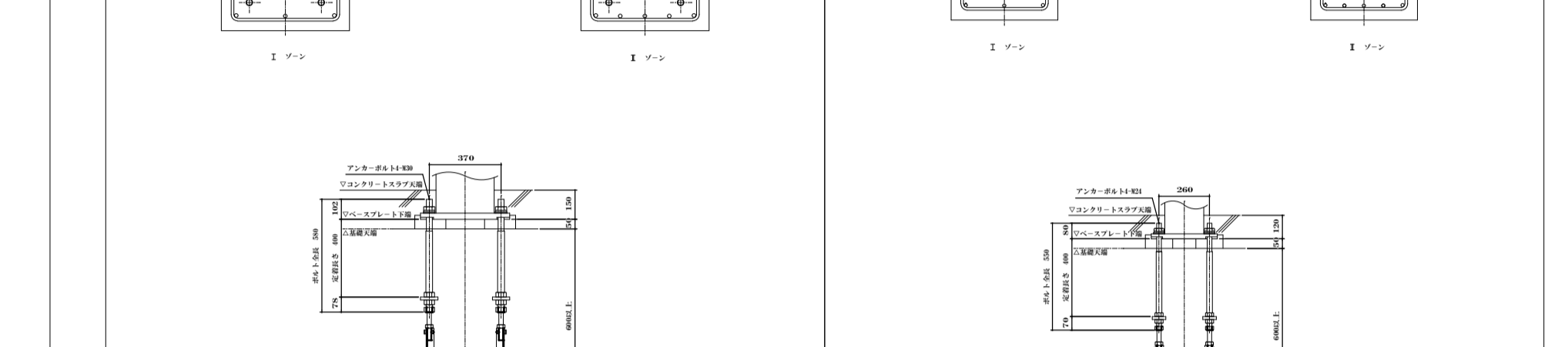
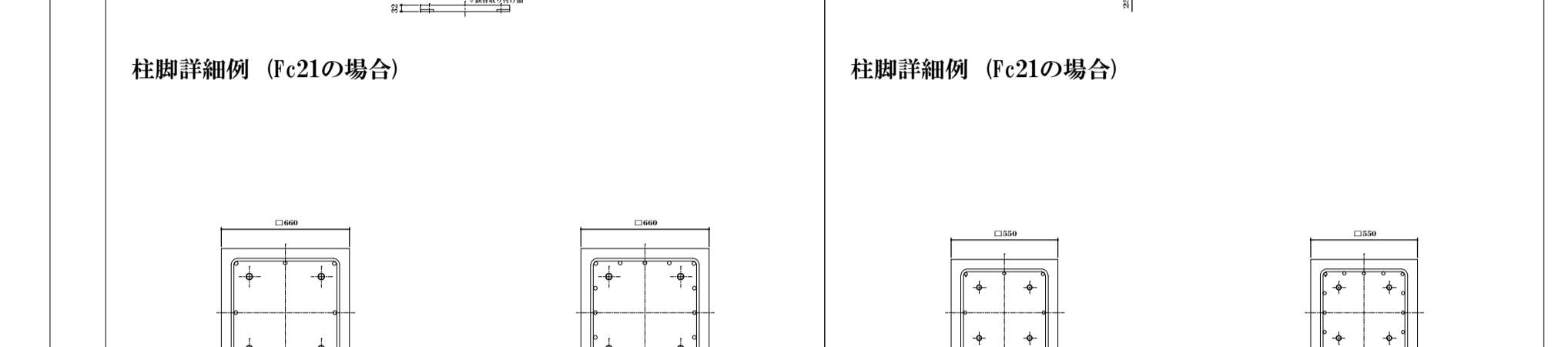
4. 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトとしないでください。

5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

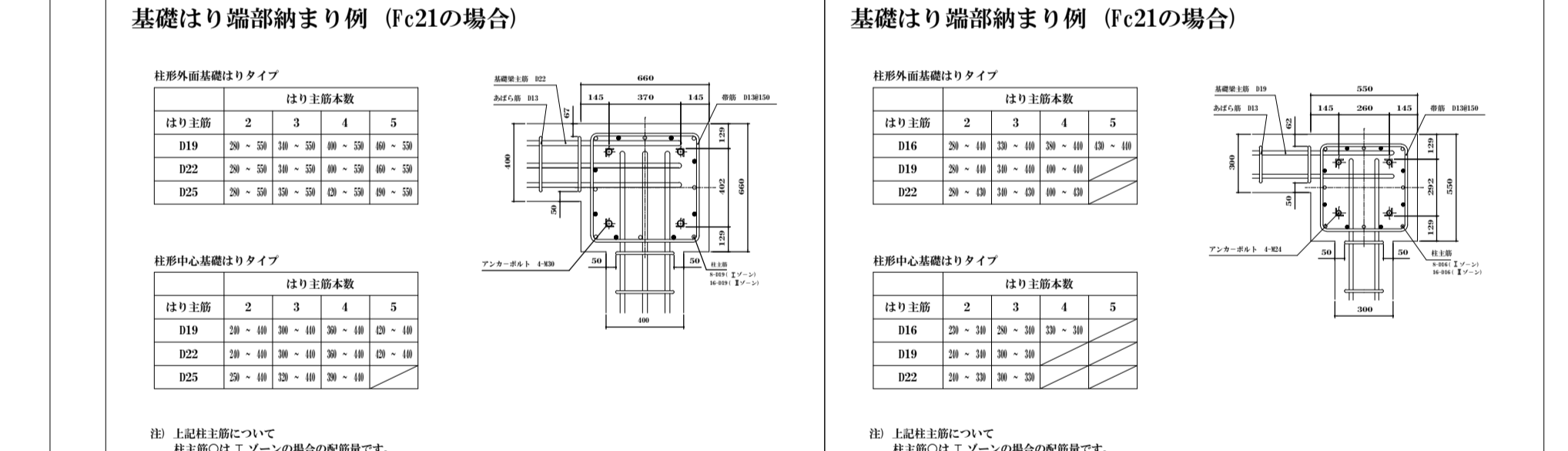
現場施工

(注: セクシアの担当範囲)

- 捨てコンクリート打設
 - 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げ。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入 (≡)
- アンカーボルト据付 (≡)



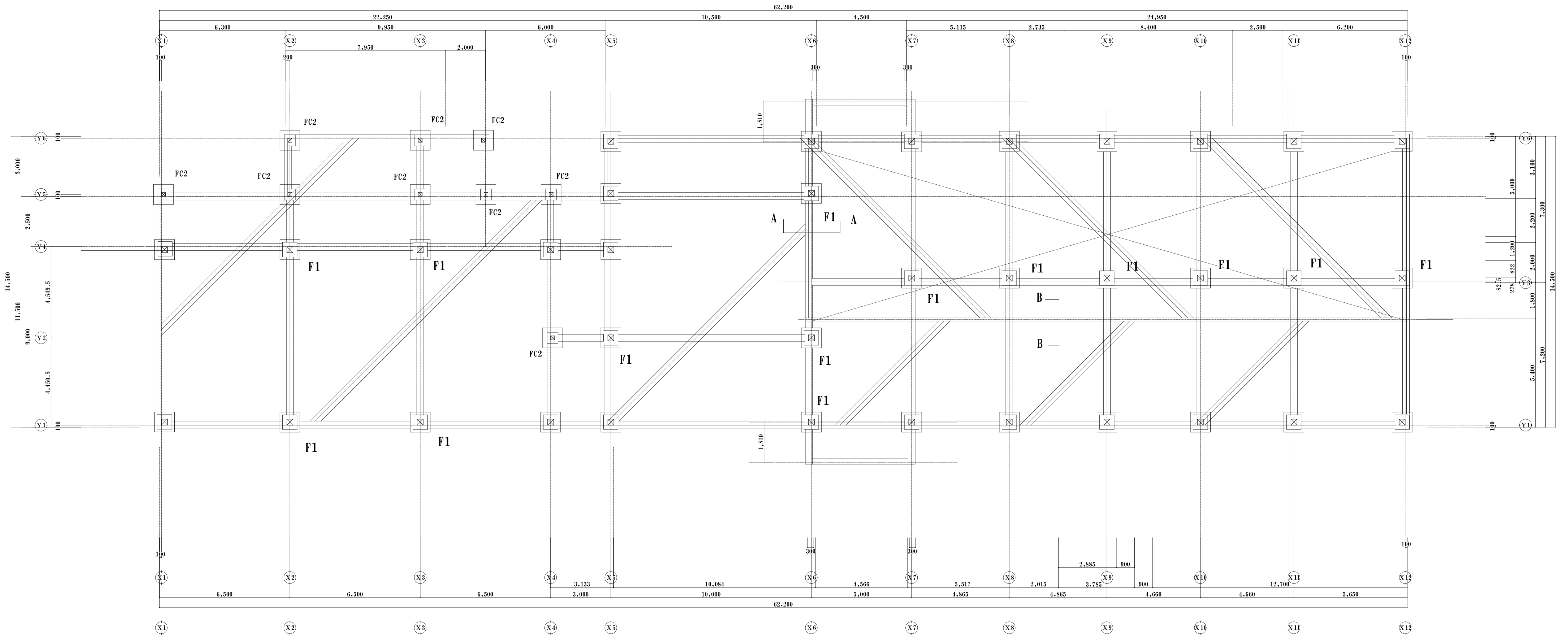
適用柱	角形鋼管柱 □200 (取付範囲: 6~10mm)				角形鋼管柱 □250 (取付範囲: 6~12mm)					
	I ゾーン		II ゾーン		I ゾーン		II ゾーン			
柱径	基礎柱径	基礎	柱径	基礎柱径	基礎	柱径	基礎柱径	基礎		
660	8-119 (S18343)	D138150 (S12953)	660	16-D19 (S18343)	D138150 (S12953)	280	350	8-D16 (S12953)	D138150 (S12953)	280
440	8-119 (S18343)	D138150 (S12953)	660	16-D19 (S18343)	D138150 (S12953)	280	350	8-D16 (S12953)	D138150 (S12953)	280



注) 上記仕様について、柱基礎コンクリートの場合の配筋標準は、柱主筋と柱主筋を合わせた配筋標準となります。

注) 上記仕様について、柱基礎コンクリートの場合の配筋標準は、柱主筋と柱主筋を合わせた配筋標準となります。

注) 上記仕様について、柱基礎コンクリートの場合の配筋標準は、柱主筋と柱主筋を合わせた配筋標準となります。



基礎伏図・1F床伏図 1/100

特記事項 記載なき基礎はF2、FC1とする
 記載なき基礎梁はFG1とする

土間コンクリート t 120 D10-@200クロス
 再生砕石 t 120

立上り壁W150 D10-@150クロス
 犬走りは意匠図による。

杭仕様 G-E C S パイル工法

F2 190.7Φ x 7.0 L=4.5m 材質STK490 30 本
 F1 216.3Φ x 8.2 L=4.5m 材質STK490 14 本

総本数 44本

